

資 料 一 覧

- 次 第
- 第6回復興道路会議～岩手県～ 配席図
- 復興道路会議～岩手県～ 構成員
- 復興道路会議～岩手県～ 規約
- 復興道路・復興支援道路の概要
- 復興道路・復興支援道路（岩手県内の概要）
- 資料－1 復興道路・復興支援道路の各路線別進捗状況
- 資料－2 各事業区間の進捗状況
- 資料－3 復興道路・復興支援道路の「見える化」
【国土交通省の取り組み事例】
- 資料－4 復興道路・復興支援道路の「見える化」
【岩手県の取り組み事例】
- 資料－5 事例発表【岩手県】
- 資料－6－1 事例発表【釜石市】
- 資料－6－2 事例発表【宮古市】
- 資料－6－3 事例発表【久慈市】
- 資料－6－4 事例発表【野田村】
- 資料－6－5 事例発表【普代村】
- 資料－6－6 事例発表【大槌町】
- 資料－6－7 事例発表【大船渡市】

第 6 回 復 興 道 路 会 議 ～岩手県～

日 時：平成 2 8 年 6 月 1 3 日（月）

1 3 : 3 0 ~

場 所：岩手県自治会館 3 階 第 2 会 議 室

議 事 次 第

1. 挨 拶

国土交通省 東北地方整備局 道路部長

岩手県 県土整備部長

2. 議 事

1) 復興道路・復興支援道路の今後の進め方
について

資料 1 ~ 4

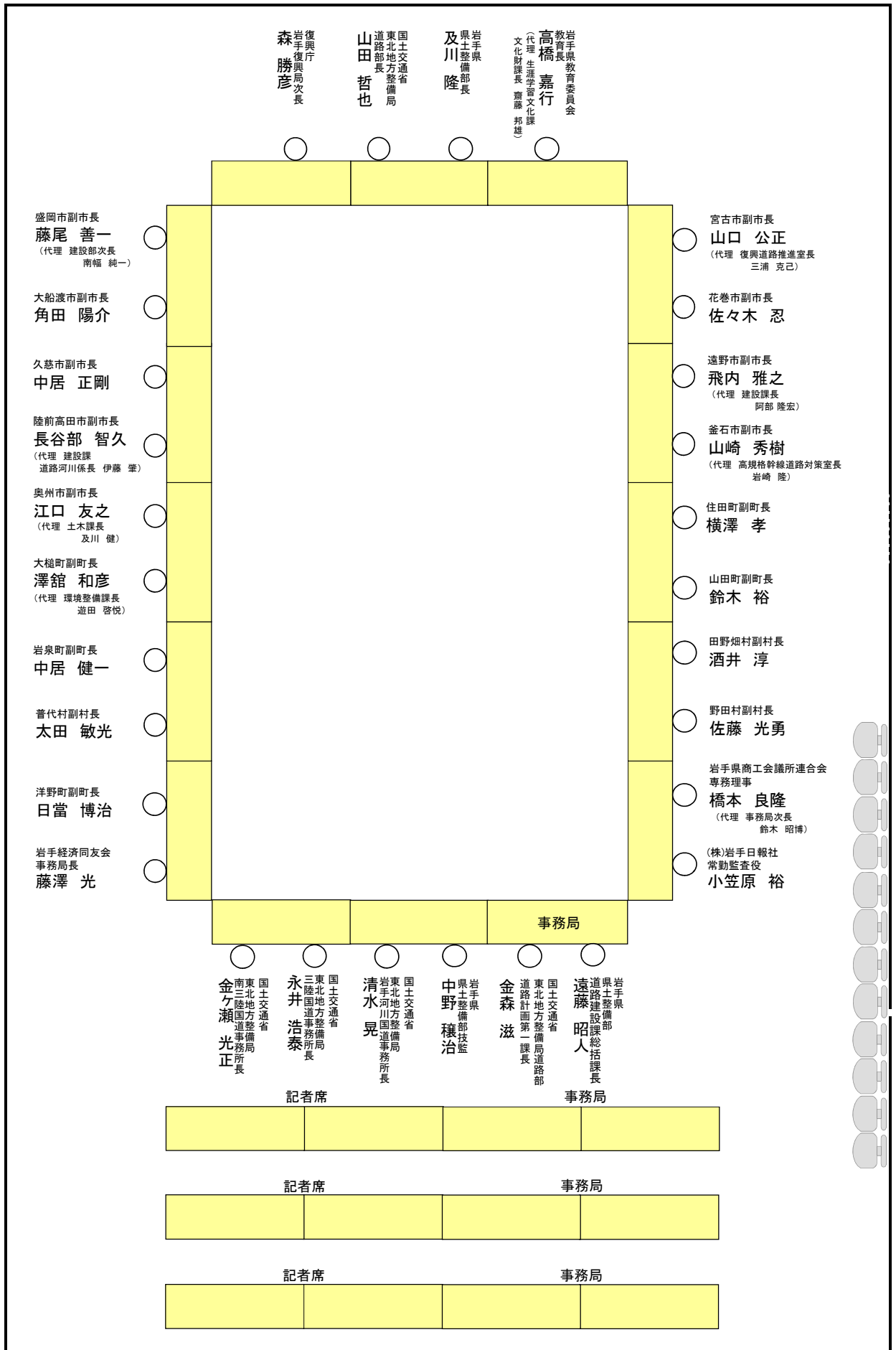
2) 復興道路等を活かした地域振興支援策、
地域づくり事例の情報共有について

資料 5 ~ 6

3) その他

「第6回復興道路会議～岩手県～」配席図

岩手県自治会館 3階第2会議室 13:30～



「復興道路会議～岩手県～」

役 職 名	氏 名
岩手県県土整備部長	及川 隆
岩手県農林水産部長	紺野 由夫
岩手県教育委員会教育長	高橋 嘉行
盛岡市副市長	藤尾 善一
宮古市副市長	山口 公正
大船渡市副市長	角田 陽介
花巻市副市長	佐々木 忍
久慈市副市長	中居 正剛
遠野市副市長	飛内 雅之
陸前高田市副市長	長谷部 智久
釜石市副市長	山崎 秀樹
奥州市副市長	江口 友之
住田町副町長	横澤 孝
大槌町副町長	澤舘 和彦
山田町副町長	鈴木 裕
岩泉町副町長	中居 健一
田野畑村副村長	酒井 淳
普代村副村長	太田 敏光
野田村副村長	佐藤 光勇
洋野町副町長	日當 博治
一般社団法人東北経済連合会 専務理事	大江 修
岩手県商工会議所連合会 専務理事	橋本 良隆
岩手経済同友会 事務局長	藤澤 光
株式会社岩手日報社 常勤監査役	小笠原 裕
復興庁 岩手復興局次長	森 勝彦
国土交通省 東北地方整備局 道路部長	山田 哲也
国土交通省 東北地方整備局 岩手河川国道事務所長	清水 晃
国土交通省 東北地方整備局 三陸国道事務所長	永井 浩泰
国土交通省 東北地方整備局 南三陸国道事務所長	金ヶ瀬 光正

敬称略

復興道路会議～岩手県～

規約

(名称)

第1条 本会議は、「復興道路会議～岩手県～」と称する。

(目的)

第2条 本会議は、東日本大震災からの復興に向けたリーディングプロジェクトとなる復興道路等の早期完成を図るため、全ての関係者に対する事業進捗への合意形成と、国・県・市町村・関係機関の連携による課題解決を目的として開催する。

(協議事項)

第3条 本会議は、前条の目的を達成するため、次の各号に掲げる連絡及び調整を行う。

- 一 事業の合意形成に関する事項
- 二 事業促進の課題解決に関する事項
- 三 その他本会の目的を達成するために必要な事項

(対象事業)

第4条 本会議で対象とする復興道路は、以下のとおりとする。

- 一 三陸沿岸道路
- 二 東北横断自動車道釜石秋田線、宮古盛岡横断道路
- 三 その他

(組織)

第5条 本会議は、以下の構成員をもって組織する。

- 一 岩手県、復興庁 岩手復興局
国土交通省 東北地方整備局
- 二 復興道路等の関係市町村
- 三 地域経済界及び報道関係代表

(事務局)

第6条 本会議の庶務は、岩手県県土整備部及び国土交通省東北地方整備局道路部において処理する。

(雑則)

第7条 この規約に定めるもののほか、本会議の運営に関して必要な事項は会議において定める。

復興道路・復興支援道路の概要

H28.6.10現在

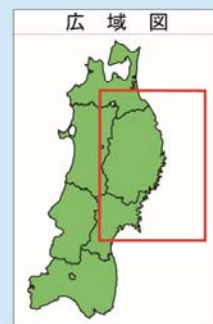
復興道路・復興支援道路の総延長608km
 [震災後新規区間247km(約4割)]



三陸沿岸道路 359 km
 [震災後新規区間 148 km]

路線名	計画延長	開通延長	事業中延長	
			うち震災後開通	うち震災後新規
三陸沿岸道路	約 359km	158km	29km	201km
宮古盛岡横断道路	約 100km	11km	10km	55km
東北横断道釜石秋田線 (釜石～花巻)	約 80km	63km	33km	17km
東北中央自動車道 (相馬～福島)	約 45km	0km	0km	45km
計	約 584km	232km	72km	318km
みやぎ県北高速幹線道路	約 24km	9km	9km	11km
合計	約 608km	241km	81km	329km

岩手県内の概要



三陸沿岸道路約359km
(岩手県内213km)

新たな開通見通し区間【H28.6.8公表】

凡例

- 供用中
- 事業中
- 調査中
- H23補正新規箇所
- 4車線化計画箇所



路線名	計画延長	開通延長	開通延長		事業中延長	
			うち震災後開通	うち震災後新規	うち震災後開通	うち震災後新規
三陸沿岸道路	約 359km	158km	29km	148km	201km	148km
うち、岩手県	約 213km	65km	17km	148km	148km	122km
宮古盛岡横断道路	約 100km	11km	10km	55km	55km	48km
うち、岩手県	約 100km	11km	10km	55km	55km	48km
東北横断道釜石秋田線(釜石～花巻)	約 80km	63km	33km	17km	17km	17km
うち、岩手県	約 80km	63km	33km	17km	17km	17km
東北中央道(相馬～福島)	約 45km	0km	0km	45km	45km	23km
合計	約 584km	232km	72km	318km	318km	236km
うち、岩手県	約 393km	139km	60km	220km	220km	187km

宮城県

復興道路・復興支援道路の各路線別進捗状況

《平成27年度の進捗状況》

- 復興道路・復興支援道路の**用地進捗率は約9割、主要構造物着手率は約7割まで進捗**
- 吉浜道路(3.6km)と登米志津川道路(2km)の開通により、**三陸沿岸道路の開通延長が6km延伸**
- 遠野～宮守(9km)と都南川目道路(2.6km)の開通により、**復興支援道路の開通延長が12km延伸**
- 三陸沿岸道路の**4車線化が8km延伸**(計画延長約52kmのうち、40km開通) 残る12kmは平成28年度開通予定

路線名	計画延長	開通延長 ※	事業中延長 ※	用地進捗率 ※1	工事着手率 ※2	主要構造物 着手率 ※3	主要構造物 完成率 ※4	トンネル掘削 進捗率 ※5	橋の上部工 着手率 ※6
				上段:H27.3.31現在					
三陸沿岸道路	約 359km	152km	207km	約90%	約95%	約70%	約35%	約35%	約45%
		158km	201km	約95%	100%	約80%	約40%	約70%	約60%
宮古盛岡横断道路	約 100km ※	8km	58km	約90%	約75%	約40%	約30%	約10%	約40%
		11km	55km	約99%	約85%	約60%	約35%	約20%	約45%
東北横断道釜石秋田線 (釜石～花巻)	約 80km	54km	26km	約95%	100%	約75%	約55%	約85%	約55%
		63km	17km	約99%	100%	約80%	約65%	約95%	約65%
東北中央道 (相馬～福島)	約 45km	0km	45km	約85%	約90%	約65%	約25%	約55%	約50%
		0km	45km	約94%	100%	約70%	約40%	約80%	約55%
合 計	約 584km	214km	336km	約90%	約95%	約65%	約35%	約35%	約45%
		232km	318km	約96%	約98%	約75%	約40%	約60%	約55%

※未事業化区間約34kmを含む

三陸沿岸道路(4車線化)	約 52km	32km	20km	100%	100%	100%	約90%	—	100%
		40km	12km	100%	100%	100%	100%	—	100%

【宮城県】 みやぎ県北高速幹線道路	約 24km	9km	11km	約85%	約80%	約70%	約65%	—	約65%
		9km	11km	約94%	100%	約70%	約65%	—	約65%

※ 開通延長、事業中延長は、平成28年6月10日時点

※1: 用地進捗率=取得済面積(ha)÷必要面積(ha)
 ※2: 工事着手率=工事に着手したIC開延長÷計画済延長
 ※3: 主要構造物着手率=(着手済+完成済構造物数)÷全構造物数
 ※4: 主要構造物完成率=完成済構造物数÷全構造物数
 ※5: トンネル掘削進捗率=トンネル掘削延長÷トンネル計画延長
 ※6: 橋の上部工着手率=(上部工着手済+完成済橋梁数)÷全橋梁数

【岩手県】各事業区間の進捗状況

路線名	市町村名	事業区間名	延長	開通予定※	用地進捗率 (面積ベース)※1	埋蔵文化財 調査完了率※2	保安林解除	事業進捗上の課題
					上段:H27.3.31現在 下段:H28.3.31現在			
三陸沿岸道路								
洋野町		洋野階上道路 (待浜～階上)	23.0km (20.0km)	—	約67%	約60%	対象外	・用地取得の推進
					約83%	約70%		
久慈市		久慈北道路	7.4km	H30年度	約95%	100%	対象外	・用地取得の推進
					約97%	100%		
		久慈道路	3.2km	H5.12.16開通				
野田村		野田久慈道路 (普代～久慈)	25.0km	—	約92%	約80%	6箇所/8箇所解除済	・用地取得の推進
					約95%	約85%	7箇所/8箇所解除済	
普代村		普代道路(普代バイパス)	4.2km	H25.10.13開通				
尾野畑村		尾肝要普代道路 (尾肝要～普代)	8.0km	—	約90%	100%	対象外	・用地取得の推進
					約93%	100%		
		尾肝要道路	4.5km	H26.3.2開通				
田野畑村		田野畑道路 (田野畑南～尾肝要)	6.0km	—	約96%	100%	対象外	・用地取得の推進
					約99%	100%		
		岩泉道路(中野バイパス)	6.2km	H22.11.28開通				
岩泉町		田老岩泉道路 (田老～岩泉)	6.0km	H29年度	約99%	100%	対象外	・用地取得の推進
宮古市		宮古田老道路 (宮古中央～田老)	21.0km	H32年度 (一部 H29年度)	約92%	約80%	対象外	・用地取得の推進
					約98%	約90%		
		宮古道路	4.8km	H22.3.21開通				
山田町		山田宮古道路 (山田～宮古南)	14.0km	H29年度	約96%	約60%	対象外	・用地取得の推進
					約97%	約90%		
		山田道路	7.8km	H14.8.2開通				
大槌町		釜石山田道路	23.0km	一部 H30年度	約86%	約80%	2箇所/4箇所解除済	・用地取得の推進
					約96%	約90%	4箇所/4箇所解除済	
釜石市		吉浜釜石道路 (吉浜～釜石)	14.0km	H30年度	約88%	約80%	5箇所/5箇所解除済	・用地取得の推進
					約99%	約90%	5箇所/5箇所解除済	
大船渡市		吉浜道路	3.6km	H27.11.29開通				
		大船渡三陸道路	17.6km	H17.3.19開通				
		高田道路	7.5km	H26.3.23開通				
陸前高田市		唐桑高田道路 (唐桑北～陸前高田)	10.0km (8.0km)	H30年度	約99%	100%	1箇所/1箇所解除済	・用地取得の推進
					約99%	100%	1箇所/1箇所解除済	
東北横断自動車道 釜石秋田線(釜石～花巻)								
釜石市		釜石道路 (釜石～釜石西)	6.0km	H30年度	約80%	100%	5箇所/5箇所解除済	・用地取得の推進
					約93%	100%	5箇所/5箇所解除済	
		仙人峠道路	18.4km	H19.3.18開通				
遠野市		遠野道路 (遠野住田～遠野)	11.0km	H30年度	約97%	約95%	6箇所/6箇所解除済	・用地取得の推進
					100%	100%	6箇所/6箇所解除済	
		遠野～宮守	9.0km	H27.12.5開通				
		宮守～東和	23.7km	H24.11.25開通				
花巻市		東和～花巻	11.4km	H14.11.7開通				
宮古盛岡横断道路								
宮古市		宮古西道路 ※岩手県施行	3.3km	H30年度	約90%	約60%	対象外	・用地取得の推進
					100%	約80%		
		宮古箱石道路 (宮古～箱石)	33.0km	一部 H31年度 一部 H32年度	約98%	100%	9箇所/9箇所解除済	・用地取得の推進
					約99%	100%	9箇所/9箇所解除済	
		達曾部道路	1.4km	H11.12.16開通				
盛岡市		平津戸松草道路 (平津戸・岩井～松草)	7.0km	—	約72%	100%	6箇所/6箇所申請済	・用地取得の推進
					約72%	100%	6箇所/6箇所申請済	
		区界道路 (区界～築川)	8.0km	H32年度	約73%	約99%	3箇所/3箇所申請済	・用地取得の推進
					約99%	100%	3箇所/3箇所解除済	
		築川道路	6.7km	H25.3.10開通				
		都南川目道路	6.0km	H31年度 (一部 H28.3.12開通)	約99%	100%	対象外	・用地取得の推進
					約99%	100%		

※ 開通予定は、平成28年6月10日時点

※1: 用地進捗率=取得済面積(ha)/必要面積(ha)
※2: 埋蔵文化財調査完了率=本調査完了面積(ha)/調査対象面積(ha)

◆復興道路・復興支援道路の見える化(平成27年度)

○起工式、現場見学会、自治体での事業進捗等の見える化を紹介

◆復興道路・復興支援道路の見える化の取り組み

○住民参加による各種式典の開催

・式典への住民参加事例を紹介

○現場見学会における進捗状況の説明

・夏休みを活用した現場見学会、体験学習を併用した現場見学会を紹介

○市町村役場等における進捗状況発信

・市町村役場や道の駅、観光施設等において「モニター」「説明看板」や「かわら版」「HP」による情報発信を紹介

○地域とのコミュニケーションを重視した取り組み

・施工企業のCSR活動の見える化を紹介

◆市町村別における「見える化」の取り組み

○岩手県内

・市町村で実施する現場見学会や広報に掲載等の取り組みを紹介
・好事例を紹介

○宮城県内

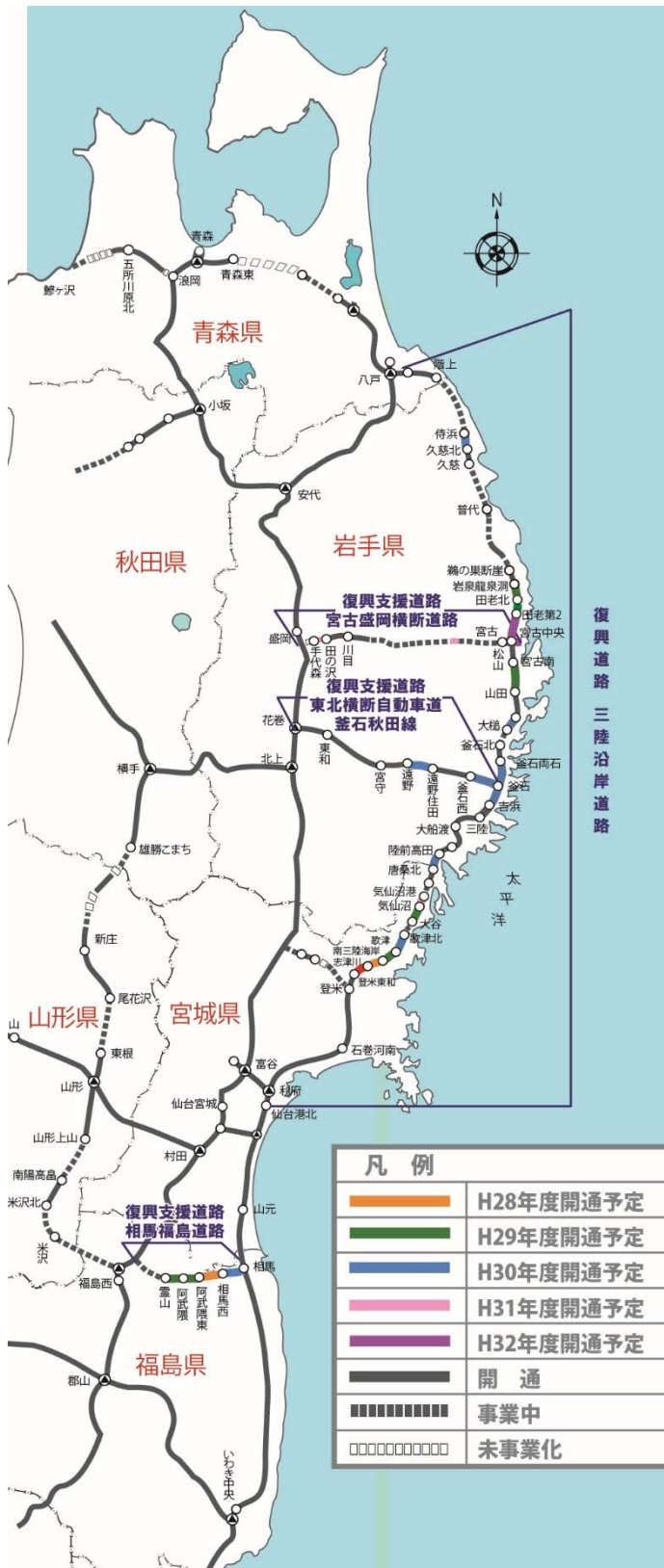
・市町村で実施する現場見学会や広報に掲載等の取り組みを紹介
・好事例を紹介

○福島県内

・市町村で実施する現場見学会や広報に掲載等の取り組みを紹介
・好事例を紹介

復興道路・復興支援道路の見える化(平成27年度)

～総延長584kmのうち230km開通済 177km新規開通見通し～



凡例	
	H28年度開通予定
	H29年度開通予定
	H30年度開通予定
	H31年度開通予定
	H32年度開通予定
	開通
	事業中
	未事業化

◇起工式・貫通式等

式典33回開催
新聞報道59回
テレビ放映50回



三陸沿岸道路 釜石山田道路
(岩手県大槌町) (H28年2月)

◇現場見学会等

79回開催
約3,070人参加
前年度
67回開催
約2,700人参加



三陸沿岸道路 気仙沼道路
(宮城県気仙沼市) (H27年8月)

◇市町村等での進捗状況等の発信

- ・市町村ロビー 25箇所
- ・道の駅等 26箇所
- ・現地看板 55箇所

合計106箇所で進捗状況等の発信を行った。

三陸沿岸道路 洋野階上道路
(岩手県九戸郡洋野町) (H27年10月)



◇HP等による情報発信

3.11 復興道路・復興支援道路情報サイト
復興道路
 このホームページは、「復興道路」「復興支援道路」の進捗状況や国民の皆様方にお伝えするために作成しています。
[復興道路トップページ](#) [復興道路の概要](#) [各県のお問合せ](#) [事業進捗状況](#) [開通目標](#) [リンク](#)

○事業区間の開通目標を更新しました (H28.4.21)

復興道路・復興支援道路の概要

下図の県名・市町村名・路線名をクリックすると詳細ページへ移動します。



●記者発表

- 平成28年
- 5月27日 **記者発表** 三陸沿岸道路(気仙沼道路)の概況について、(岩手県)岩手県知事から記者発表を行いました。
- 5月19日 **記者発表** 復興道路「復興道路」の概況について、(宮城県)宮城県知事から記者発表を行いました。
- 5月12日 **記者発表** 復興道路「復興道路」の概況について、(山形県)山形県知事から記者発表を行いました。
- 5月9日 **記者発表** 復興道路「復興道路」の概況について、(福島県)福島県知事から記者発表を行いました。
- 4月25日 **記者発表** 復興道路「復興道路」の概況について、(岩手県)岩手県知事から記者発表を行いました。

●進捗に関する新規情報

- 5月27日 復興道路「復興道路」の概況について、(岩手県)岩手県知事から記者発表を行いました。
- 5月27日 復興道路「復興道路」の概況について、(宮城県)宮城県知事から記者発表を行いました。
- 5月27日 復興道路「復興道路」の概況について、(山形県)山形県知事から記者発表を行いました。
- 5月17日 復興道路「復興道路」の概況について、(福島県)福島県知事から記者発表を行いました。

●県別進捗状況

- 青森県
- 岩手県
- 宮城県
- 福島県

●路線別進捗状況

- 三陸沿岸道路(岩手県～山形県)
- 宮古盛岡横断道路(岩手～盛岡)

復興道路・復興支援道路の見える化の取り組み(1)

●住民参加による各種式典の開催

- ◆工事の節目に行う式典(安全祈願祭、連結式等)において住民参加の各種式典を開催。
- ◆工事の進捗状況について理解を深め、地域とのコミュニケーションを重視。

【宮古盛岡横断道路 ^{くざかい}区界道路】
新区界トンネル安全祈願祭《岩手県宮古市》
(H27.6.28)



▲岩手県内最長(約5,000m)となるトンネルの安全祈願祭に、地域の方々等を招き開催。

【相馬福島道路 ^{りょうぜん}霊山道路】
(仮称)犬飼大橋連結式 《福島県伊達市》
(H28.1.29)



▲地域の方々や地元の小学生等を招いて連結式を開催。

復興道路・復興支援道路の見える化の取り組み(2)

●現場見学会における進捗状況の説明

- ◆小中学生や地域の方々、土木を専門に学んでいる高校生・大学生、復興道路等の事業を支援していただいている団体や自治体等、様々な方々が現場見学会に参加。
- ◆夏休みを活用し親子で参加できる現場見学会の開催、体験学習を併用した現場見学会の開催等、工夫を凝らした現場見学会を開催。

【三陸沿岸道路 山田宮古道路】

地元の小学生による現場見学会
《岩手県下閉伊郡山田町》



▲(仮称)山田第2トンネルを見学(H27.11.26)

【三陸沿岸道路 気仙沼道路】

夏休みを利用した現場見学会《宮城県気仙沼市》



▲ボルトの締め付け体験(H27.8.5)

復興道路・復興支援道路の見える化の取り組み(3)

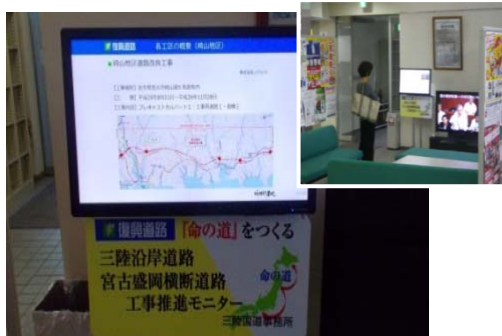
●市町村役場等における進捗状況発信

- ◆地域の方々が集まる市町村の役場・道の駅や観光客が集まる観光施設等においてモニター、かわら版、HP等を活用し、復興道路等の必要性や工事の進捗状況を発信。
- ◆地域の方々や道路利用者、観光客等を対象に進捗状況の見える化の取り組みを実施。

①復興道路等の沿線市町村ロビー等における情報提供の工夫



▲市役所のカウンター脇の小スペースを活用しモニターより情報を発信
(岩手県釜石市)



▲市役所の休憩スペースを活用しモニターより情報を発信
(岩手県宮古市)

③現場広報ポイントにおける説明看板の工夫



▲「吉浜釜石道路 荒川トンネル」では説明看板に三次元平面図を活用
(岩手県釜石市)



▲統一看板への開通目標の掲示(福島県相馬市)

②沿線道の駅等における情報提供の工夫



▲メイン通線の進捗状況を発信



▲道の駅「区界高原」における工事進捗状況の発信
(岩手県宮古市)



▲道の駅「南相馬」における工事進捗状況の発信
(福島県南相馬市)

④「かわら版」やHPによる情報発信



▲進捗状況をお知らせする「かわら版」



▲東北地方整備局の復興道路ポータルサイト(HP)

復興道路・復興支援道路の見える化の取り組み(4)

●地域とのコミュニケーションを重視した取り組み

- ◆次代を担う子供たちを含めた地域とのコミュニケーションをより重視して、施工企業のCSR活動とともに見える化の取り組みを実施。
 - ・三陸沿岸道路山田宮古道路では、ダンプトラック目線による「ヒヤリ・ハットMAP」を作成し小学校へ配布、卒業・入学おめでとう看板の設置、工事の進捗状況をお知らせするインフォメーションセンターの開設等を行い、地域とのコミュニケーションを深める取り組みを実施。
 - ・相馬福島道路相馬西道路では、地元の方々を招待し、現場見学会を実施。

【三陸沿岸道路 山田宮古道路】
山田宮古道路安全連絡協議会

【相馬福島道路 相馬西道路】
今田高架橋上部工工事 《福島県相馬市》



- ▲地域の皆様からの要望に応え、「ヒヤリ・ハットMAP」を作成し、小学校へも配布(H27.5)
- ▲卒業・入学おめでとう看板を設置(H27.3~4)



- ▲インフォメーションセンター開設(H27.8.5)



- ▲今田高架橋の桁架設状況を地元の方々が見学(H27.6.3)

- ▲常磐道交差部を一括架設

○ 市町村別における「見える化」の取り組み

【岩手県】

盛岡市	<ul style="list-style-type: none"> ・盛岡市ホームページで復興道路を紹介 ・築川福祉センター(築川支所)に宮古盛岡横断道路事業概要パネル及び新区界トンネル工事進捗パネルを設置
宮古市	<ul style="list-style-type: none"> ・市主催で地元住民等を対象とした復興道路等現場見学会の実施 ・川井総合事務所、新里総合事務所に宮古盛岡横断道路事業概要パネル及び新区界トンネル工事進捗パネルを設置 ・道の駅を主会場とした産業祭に事業紹介展示コーナーを確保 ・市広報紙で「震災復興5年の高規格幹線道路網整備状況」を特集掲載 ・市広報紙で工事進捗状況を掲載 ・市役所ロビーでの工事進捗情報提供モニター及び工事進捗チラシの設置 ・三陸国道事務所主催の事業進捗パネル展への協力
大船渡市	<ul style="list-style-type: none"> ・市役所ロビーにモニターを設置し工事進捗状況をお知らせ(H25.1～継続) ・市役所ロビー吉浜地区拠点センター、道の駅「さんりく」で「工事状況のお知らせ」を配布 ・市広報で「三陸沿岸道路の進捗状況」を2頁、「吉浜道路」開通のお知らせを4頁にわたり特集掲載【事例1】
久慈市	<ul style="list-style-type: none"> ・市役所・支所・公民館等での工事進捗チラシの設置、HPへの掲載。 ・市広報紙に工事進捗状況を掲載 ・久慈秋祭りにおける「北リアスみちづくり女性の会」と合同による道路整備促進啓発活動(チラシの配布)の実施
遠野市	<ul style="list-style-type: none"> ・「道の駅」遠野風の丘に事業進捗パネルを設置 ・市役所ロビー及び後方支援資料館に事業進捗パネル等を設置(H27.3～) ・地元住民を対象とした現場見学会に主催者として対応(バスの運行等)
陸前高田市	<ul style="list-style-type: none"> ・市役所、各コミュニティセンター、物産センター、一本松茶屋で「工事状況のお知らせ」を配布 ・「復興まちづくり情報館」に復興道路等の工事進捗をお知らせするモニター、パネルを設置 ・地域の女性を対象とした「現場見学会」を主催
釜石市	<ul style="list-style-type: none"> ・市役所市民課及び各生活応援センターで「工事状況のお知らせ」を配布 ・鶴住居生活応援センターで「釜石山田道路かわら版」を掲示 ・市役所市民課に復興道路等の工事進捗をお知らせするモニターを設置(継続) ・道の駅「釜石仙人峠」内で「釜石道路かわら版」を掲示 ・地域の女性を対象とした「現場見学会」を主催
大槌町	<ul style="list-style-type: none"> ・大槌町役場、中央公民館、生井沢集會場に「かわら版」を掲示、配布 ・役場ロビー及びショッピングセンターに復興道路等の工事進捗をお知らせするモニターを設置 ・小学生とその保護者を対象とした「まちづくり現場見学会」を主催
山田町	<ul style="list-style-type: none"> ・役場及び町民ホールでの工事進捗チラシの設置 ・町民ホールでの工事進捗情報提供モニターの設置 ・町広報紙とともに工事進捗チラシの配布 ・町広報紙に工事進捗状況を掲載 ・観光協会ブログで工事進捗を発信【事例2】
岩泉町	<ul style="list-style-type: none"> ・役場での工事進捗チラシの設置 ・工事進捗チラシの施工業者との連名発行、町内回覧とともに工事進捗チラシの配布 ・町広報紙に工事進捗状況を掲載 ・現場見学会の調整
田野畑村	<ul style="list-style-type: none"> ・役場での工事進捗チラシの設置 ・田野畑牛乳フェアの際のパネル展開催 ・村広報紙に協議会における清掃活動や現場見学会記事などを掲載
普代村	<ul style="list-style-type: none"> ・役場での工事進捗チラシの設置 ・村広報紙に工事進捗状況を掲載 ・普代まると元気市の際のパネル展開催
野田村	<ul style="list-style-type: none"> ・役場内電子掲示板での工事進捗状況の提供 ・地区回覧とともに工事進捗チラシの配布 ・村広報紙に工事進捗状況を掲載
洋野町	<ul style="list-style-type: none"> ・町役場ロビーでのパネルの展示、整備促進懸垂幕の設置 ・村内イベント(文化祭等)の際のパネル展開催 ・役場等での工事進捗チラシの設置

【岩手県】

【事例1】 広報誌にて進捗状況を発信(大船渡市)

吉浜道路完成予想イメージ

三陸沿岸道路
東日本震災からの道路復興に向け、復興道路として三陸沿岸道路の建設が進められています。その一部である「吉浜道路」は、吉浜ICから吉浜ICまでの約1.4kmの区間を建設中です。

吉浜道路
吉浜道路は、三陸ICから吉浜ICまでの約3.6kmの区間に、2つの高架橋と1本のトンネルがあります。吉浜ICは橋脚が完成しています。

三陸沿岸道路
三陸沿岸道路は、吉浜ICから吉浜ICまでの約3.6kmの区間に、2つの高架橋と1本のトンネルがあります。吉浜ICは橋脚が完成しています。

吉浜IC
吉浜ICは、三陸ICから吉浜ICまでの約3.6kmの区間に、2つの高架橋と1本のトンネルがあります。吉浜ICは橋脚が完成しています。

道の駅さんりく
現在、ついで出入り口の吉浜ICの建設は予定されています。道の駅さんりくは、吉浜ICの建設に合わせて、吉浜ICから吉浜ICまでの約3.6kmの区間に、2つの高架橋と1本のトンネルがあります。

▽お問い合わせ先
岩手県建設部 建設課
〒985-0801 大船渡市 大船渡 1-1-1
TEL 0193-47731
FAX 0193-47732

三陸沿岸道路の進捗よく状況をお知らせします

東日本震災からの道路復興に向け、復興道路として三陸沿岸道路の建設が進められています。その一部である「吉浜道路」は、吉浜ICから吉浜ICまでの約1.4kmの区間を建設中です。

三陸沿岸道路
三陸沿岸道路は、吉浜ICから吉浜ICまでの約3.6kmの区間に、2つの高架橋と1本のトンネルがあります。吉浜ICは橋脚が完成しています。

吉浜道路
吉浜道路は、三陸ICから吉浜ICまでの約3.6kmの区間に、2つの高架橋と1本のトンネルがあります。吉浜ICは橋脚が完成しています。

道の駅さんりく
現在、ついで出入り口の吉浜ICの建設は予定されています。道の駅さんりくは、吉浜ICの建設に合わせて、吉浜ICから吉浜ICまでの約3.6kmの区間に、2つの高架橋と1本のトンネルがあります。

▽お問い合わせ先
岩手県建設部 建設課
〒985-0801 大船渡市 大船渡 1-1-1
TEL 0193-47731
FAX 0193-47732

【事例2】 観光協会ブログで工事進捗を発信(山田町)

【ブログのTOPへ】

山田町観光協会 公式ブログ vol.2

山田とことこ日記

岩手県のリアス式で有名な三陸海岸のど真ん中「山田町」にある山田町観光協会の公式ブログ(vol.2)です。山田の観光情報、おすすめスポット、旬の話題、復興状況など発信してまいりますのでよろしくお願ひします！

実際、現場での作業は9月から始まったのですが、それまでは茨城県の手取市にある工場、橋桁の製作を行っていました。工場で作った橋桁は、大きなトレーラーに乗せて現場まで運んできたそうです。

150 t クレーンによる桁架設作業の様子をコマ送りで。

グイイグイイン

鉄板の左右に結ばれたロープで揺れを調節しています。桁と桁は「高力ボルト」というネジで連結されます。豊間根川橋では「高力ボルト」を1万8千本使うそうですよ。

検索ボックス

○ 市町村別における「見える化」の取り組み

【宮城県】

石巻市	<ul style="list-style-type: none"> ・市政教室において市民を対象に三陸道の現場見学会を実施し、見識を深めて頂いた。 ・市の総合防災訓練において矢本石巻道路の避難階段を利用した訓練を実施。
塩竈市	<ul style="list-style-type: none"> ・市広報誌で復興特集を毎月掲載 ・平成25年9月より、市役所ロビーに復興情報コーナーを設置 ・宮城県と塩竈市が連携し、市内大型商業施設に復興情報コーナーを設置【事例1】
気仙沼市	<ul style="list-style-type: none"> ・「海の市」に気仙沼湾横断橋の模型を展示 ・「海の市」において復興道路等の工事進捗を知らせるパネルを展示
登米市	<ul style="list-style-type: none"> ・迫総合支所において復興道路等の工事進捗を知らせるパネルを展示
南三陸町	<ul style="list-style-type: none"> ・さんさん商店街において復興道路等の工事進捗を知らせるパネルを展示 ・町広報紙にて整備状況を周知
東松島市	<ul style="list-style-type: none"> ・市の総合防災訓練において矢本石巻道路の避難階段を利用した訓練を実施。【事例2】

【宮城県】

【事例1】 市内大型商業施設に復興情報コーナーを設置(塩竈市)



【事例2】 防災訓練にて矢本石巻道路の避難階段を利用した訓練を実施(東松島市)



○ 市町村別における「見える化」の取り組み

【福島県】

福島市	<ul style="list-style-type: none"> ・福島市ホームページで復興道路を紹介 ・市役所展望ロビー等2箇所において、復興支援道路の事業概要・工事進捗をお知らせするパネルを設置
相馬市	<ul style="list-style-type: none"> ・ホームページや広報誌「広報そうま」に事業進捗状況等を掲載(H27継続)【事例1】 ・市役所ロビーにおいて復興道路工事の進捗状況を掲載(H27継続) ・地域住民に進捗状況を周知するために復興道路の現場見学会を開催
南相馬市	<ul style="list-style-type: none"> ・市役所ロビーにおいて復興道路工事の進捗状況を掲載(H27継続)
伊達市	<ul style="list-style-type: none"> ・広報誌「だて市政だより」による事業概要・工事進捗等の情報提供 ・市役所及び支所等5箇所において、復興支援道路の事業概要・工事進捗をお知らせするパネルを設置 ・市内各小・中学校27校に工事状況ポスターを掲示 ・地域及び沿線団体に現場の進捗状況を周知するために、窓口を設け、積極的に現場見学会を募集した
桑折町	<ul style="list-style-type: none"> ・広報誌「広報こおり」に復興道路の記事を掲載。【事例2】 ・役場において、復興支援道路の事業概要・工事進捗をお知らせするパネルを設置 ・桑折町ホームページのトップに復興道路・事業促進PPPのバナーを設定し紹介
国見町	<ul style="list-style-type: none"> ・国見町ホームページに復興道路紹介ホームページをリンク
新地町	<ul style="list-style-type: none"> ・町役場ロビーにおいて復興道路工事の進捗状況を掲載(H27継続)

【福島県】

【事例1】 ホームページで事業進捗状況等を紹介(相馬市)

【区間概要】

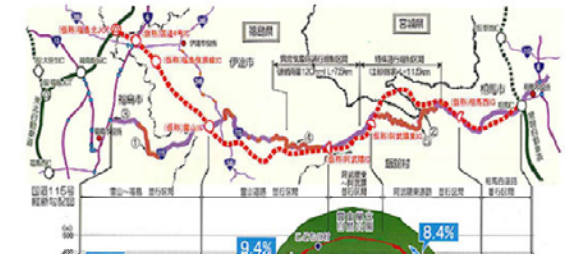
区間	住所	延長	備考
相馬西道路	相馬市山上～相馬市山上	6.0km	平成30年度開通予定
阿武隈東道路	相馬市山上～相馬市東玉野	10.7km	平成28年度開通予定
阿武隈東～阿武隈	相馬市東玉野～伊達市蓋山町石田	5.0km	平成29年度開通予定
蓋山道路	伊達市蓋山町石田～伊達市蓋山町下小国	12.0km	平成29年度開通予定
蓋山～福島	伊達市蓋山町下小国～桑折町松原	約11km	平成28年度事業着手

相馬福鳥道路 延長約45km

概要はこちら(PDF 1.19MB) >>

一般国道115号(相馬～福島間)の現状

国道115号(相馬～福島間)は、相馬～福島間を結ぶ重要な路線です。しかし、多数の線形不良箇所や事前通行規制区間等があり、信頼性や速達性において問題があります。平成10年には大雨による落石で約1ヶ月間の全面通行止めが発生し、物流、生活、観光等、多方面に大きな影響がもたらされました。一方で、東日本大震災では緊急輸送道路として利用される等、防災面においても重要な位置付けにあります。



■国土交通省東北地方整備局福島河川国道事務所では、相馬福鳥道路(蓋山～福島)の事業促進を促すため、平成26年度から事業促進PPP(Public Private Partnership)制度を導入しております。

事業促進PPP (蓋山～福島)

復興支援道路

【構造規格】

- ▽道路規格: 第1種第3級
- ▽車線数: 2車線
- ▽設計速度: V=60km/h

【区間概要】

【事例2】 広報誌に復興道路の記事を掲載(桑折町)

県北と相馬をつなぐ復興支援道路

桑折高架橋が着工

「21世紀の道分」完成に向けて動き出す

建設位置
蓋山IC-福島北JCT(いずれも仮称)
隣の桑折町大字成田字栗向田内

構造設計概要
全長1218.6m(国道約45%の中で
延長、高さ約30m、片側1車線で
幅員12m)。一部区間は東北新幹線と
東北線の上部をまたいで建設

開通目標時期
工事状況を見極めた上で決定

相馬福鳥道路開通の桑折高架橋(仮称)の着工式が5月16日、町内大会成田字栗向田内で行われ、工事関係者ら約60人が出席しました。今回の着工で、相馬、丸森(宮城県)、伊達、桑折の相馬福鳥道路沿線の4市町全てで工事開始となりました。

着工式では、高橋町長(川龍) 国土交通省東北地方整備局長 施工開始命令のサインを押して、旗を打つ前撮り撮影、旗開き、関係者、町民らによる祝いの形成など、広域的な経済活性化の期待が寄せられます。

相馬福鳥道路の完成により、相馬福鳥道路と東北自動車道が結び、無効な文化や観光資源の活性化の期待が寄せられます。

相馬～福島をつなぐ「命の道」東日本大震災からの力強い復興に貢献

桑折町
町長 高橋宣博

新たな交通の要衝となる桑折高架橋の存在は、県民が復興を実感できる象徴。まさに「21世紀の道分」の誕生であり、1日も早い完成を切望しています。

国土交通省東北地方整備局
局長 川龍弘之

相馬福鳥道路は県道と直結し、米沢や秋田までつながる。東北全体でも非常に重要な路線となります。事故なく安全・安心な工事に努めていただきたいと思います。

3 | 広報こおり 平成28年6月号

2 | 広報こおり 平成28年6月号

県政テレビ番組等を活用し、復興道路等の開通区間及びその整備効果について情報発信するとともに、県施工箇所の進捗状況を広く県民に周知し、復興の加速をアピール

1 県政番組

- ・ H27. 12. 21 (月) ~ 12. 26 (土)
- ・ テレビ岩手、岩手めんこいテレビ
IBC岩手放送、岩手朝日テレビ
「いわて! わんこ広報室」
- ・ 吉浜道路、遠野~宮守間の開通式の模様やその整備効果等について



2 県政特別番組

- ・ H28. 3. 2 (水)
- ・ IBC岩手放送
「じゃじゃじゃTV
復興への道スペシャル」
- ・ 復興道路等の進捗・整備効果等について



4 テレビ広報

- ・ H27. 6. 27 (土)
- ・ 岩手朝日テレビ 「いいコト」
- ・ 復興道路等のH27開通予定について



3 インターネット番組

- ・ H27. 12. 22 (火)
- ・ ニコニコ生放送
~いわて希望チャンネル~
- ・ 復興道路等の進捗・整備効果等について



復興道路等の見える化の取組について②

5 県土整備部広報誌

- ・ 県土整備部の旬の話題をお届けするオリジナル広報誌『美しい県土づくりNEWS』
- ・ 復興道路等の関連ニュース掲載号
 - H27. 5月号：開通見通しの公表
 - H27. 6月号：復興道路会議
 - H27. 12月号：吉浜道路、遠野～宮守の開通
 - H28. 3月号：都南川目道路の部分開通

我が県土 ともに支え育む 希望郷

美しい 県土づくりNEWS

2015年 12月 岩手県 県土整備部 平づくり広報誌第137号 平成27年12月28日発行 編集 県土整備企画室

祝 復興道路 開通!

三陸沿岸道路 吉浜道路
東北横断自動車道釜石秋田線 遠野～宮守

国が復興のリーディングプロジェクトとして整備を進めている復興道路のうち、
 ・平成27年11月29日(日)に 三陸沿岸道路「吉浜道路」3.6km
 ・平成27年12月5日(土)に 東北横断自動車道釜石秋田線「遠野～宮守」9.0km
 がそれぞれ開通しました。

また、「遠野～宮守」の開通に合わせ、遠野インターチェンジへのアクセス道路として県が整備を進めてきた一般県道遠野住田線「新工区」10.7kmも同時開通しました。

これらの開通により、物流の円滑化や観光振興、災害時の信頼性の向上など、様々なストック効果が見込まれ、本県の復興に大きく寄与することが期待されます。

【東北横断自動車道釜石秋田線(遠野～宮守間)開通式】
 安内内閣総理大臣、運輸大臣、本県知事、本県道野市長をはじめ、高木復興大臣、高木復興大臣政務官、江島国土交通大臣政務官、県道出向合議委員、障がい小学生の生徒さんほか御来賓の皆様による「テープカット」に「くす玉開き」の様子

6 県政広報誌

- ・ 岩手県広報誌 いわてグラフ
- ・ 全戸配布
- ・ 復興道路等の関連記事掲載号
 - H28. 3月号：復興道路等の開通状況、開通見通しについて

交通ネットワークの整備

特集 1 震災から5年 復興実施計画の進捗状況

本格復興を完遂し、ふるさと振興のスタートダッシュをする1年に向けて進んでいます。

3月1日、あの東日本大震災津波から5年がたります。犠牲になられた方々に、謹んで哀悼の意を表します。また、まだ緊急仮設住宅などで不自由な生活を過ごされている方々をはじめ、被災者の皆さまに心からお見舞いを申し上げます。そして、県の内外から復興を支援してくださっている大勢の皆さまに深く感謝いたします。

平成27年は、3月に「長山田線宮古・釜石間の復旧工事が開始」し、高田小学校の新校舎が完成、7月に「県庁初の大型商業施設の仮設店舗」がオープンしました。

平成28年度は、復興計画における本格復興期間の最終年度です。県民生活は、平成28年度中、初め頃の完成を目指します。また、心身の健康や、新たなコミュニティの形成など、地域や被災者一人ひとりが抱える課題に寄り添った支援をしっかりと進めていきます。

「復興」といふ大きな取組の取組は、今を生きる県民の将来を要請に添え、今目の前にある課題を解決することで、本県を切り拓き、取り組んでいきます。

◎平成27年11月に三陸沿岸道路「吉浜道路」が、同年12月に東北横断自動車道釜石秋田線「遠野～宮守」間がそれぞれ開通しました。平成30年度には東北横断自動車道釜石秋田線が全線開通の見通しとなるなど、早期全線開通を目指し、着実に整備が進

7 現場見学会

- ・ 宮古盛岡横断道路「宮古西道路」において、地元小学生等を招待し、現場見学会を開催
- ・ H27実績 計3回開催、約80人が参加



復興道路・復興支援道路の 整備効果及び活用方策について



H28.6.13

岩手県県土整備部

1 復興道路、復興支援道路のストック効果等について

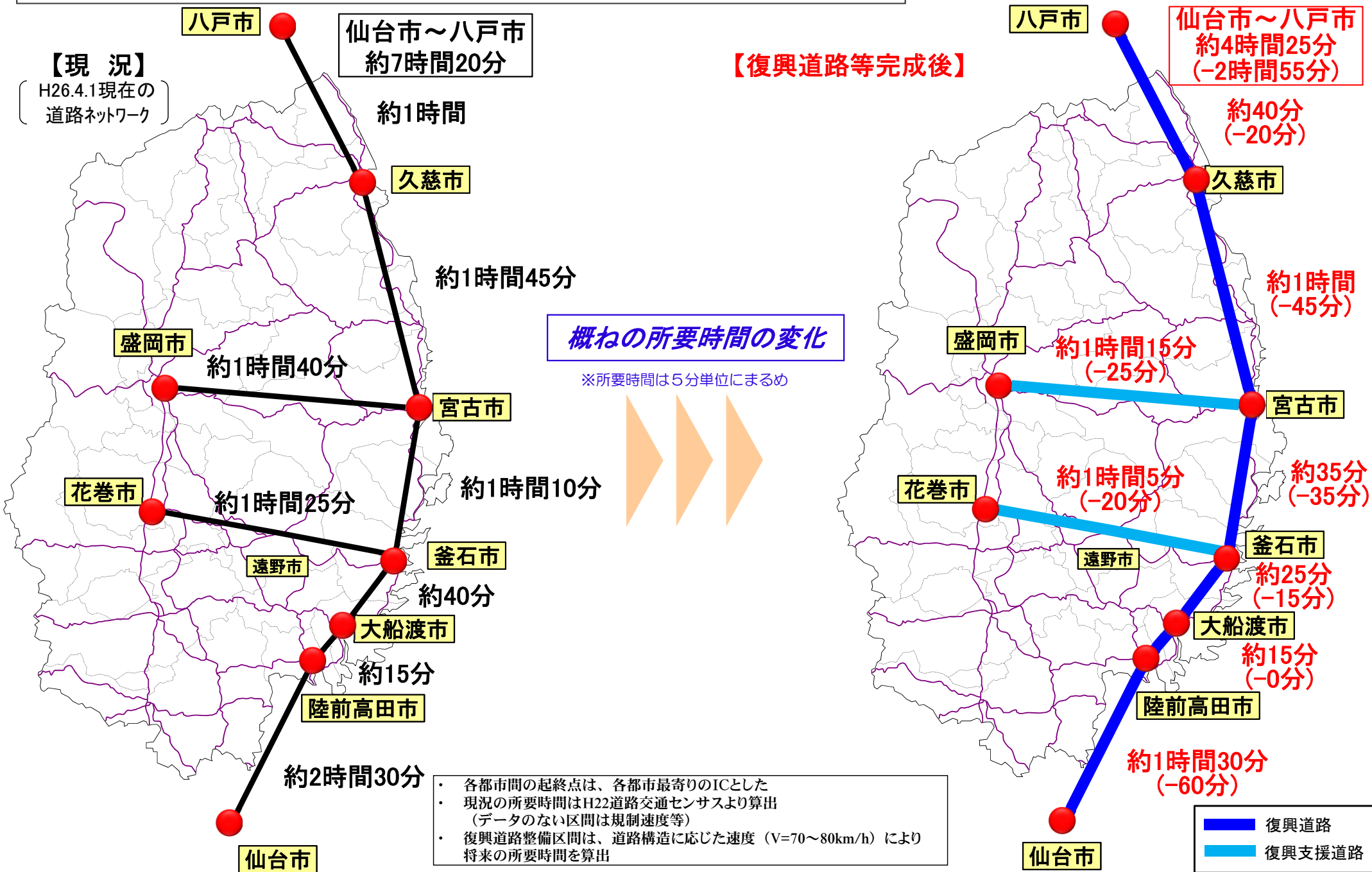
- (1) 走行時間短縮
- (2) 災害に強く信頼性の高い道路
- (3) 物流の効率化による地域産業の活性化を支援
- (4) 三陸沿岸地域の観光振興
- (5) フェリー一定期航路と連携した物流網の形成
- (6) 港湾との連携強化、物流需要の増大
- (7) さらなる港湾利用に向けた取組
- (8) 第三次救急医療機関へのアクセス向上

2 復興道路等を活用した地域振興について

- (1) 岩手三陸連携会議
- (2) 三陸の未来を拓く提案

走行時間短縮

○ 復興道路等の完成により、主要都市間の所要時間が大幅に短縮



- 復興道路の完成により、津波災害等の発生時においても通行止めルートを回避
- 主要都市間をつなぐ道路ネットワークの信頼性が向上

- ・震災時、津波により国道45号等の幹線道路で通行止めが発生
- ・陸前高田市～釜石間では、国道45号が通行止めの場合、迂回ルートは約74分、三陸道開通時は約43分となり、迂回時間は約4割、30分短縮



(平成23年3月12日)

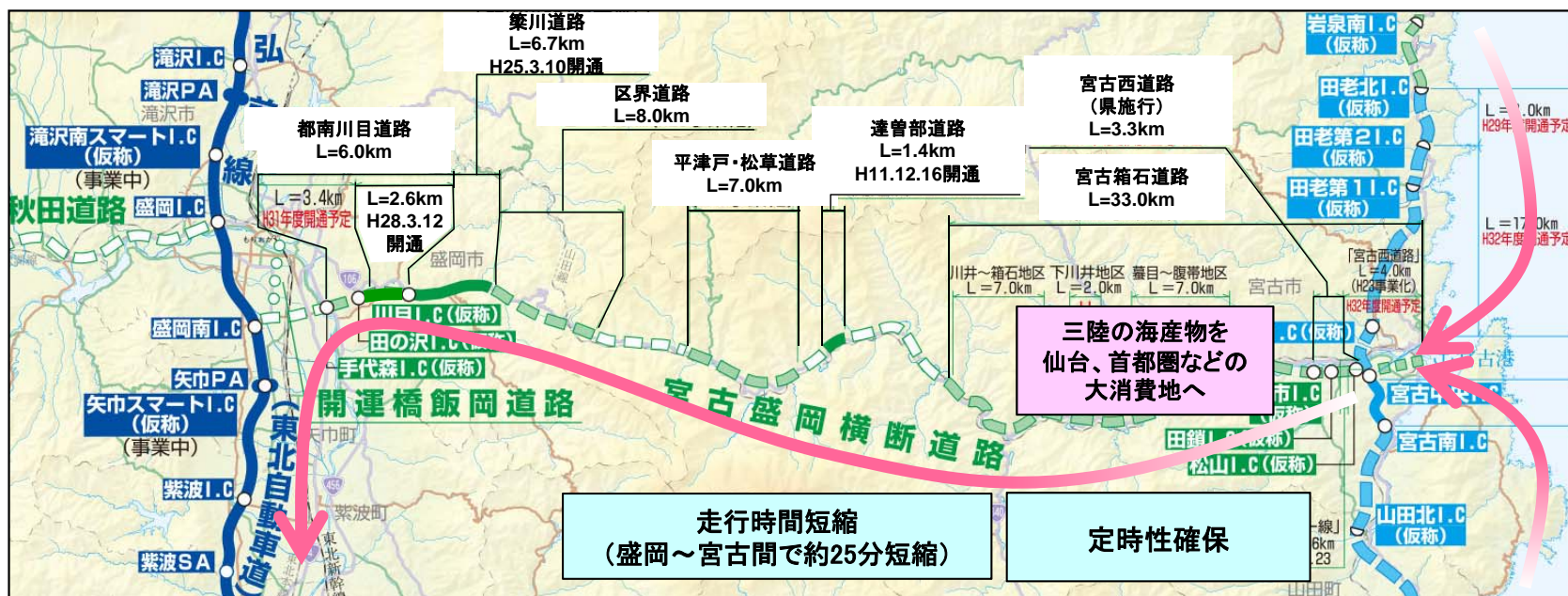
<① 釜石市平田地区>



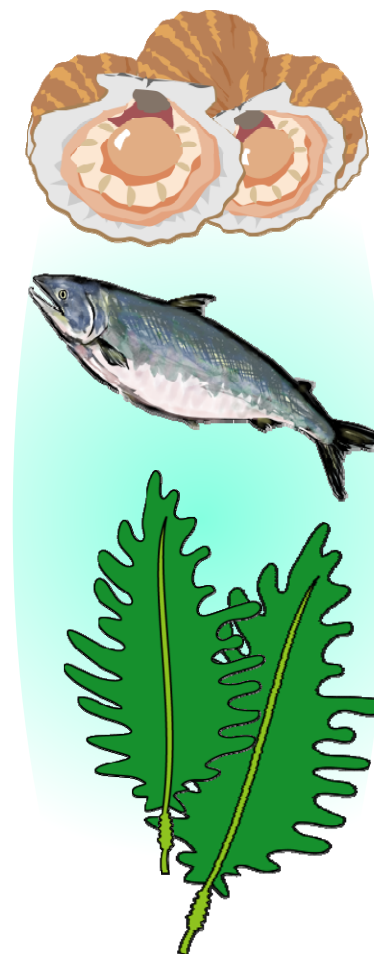
(平成23年3月15日)

<② 釜石市唐丹地区>

- 復興道路等の整備により、沿岸部から内陸部へのアクセスが向上し、**海産物の鮮度保持や輸送時の定時性の確保が図られる**
- このことにより、海産物をその日のうちに届ける「朝採り」などの**高付加価値化、新規市場の開拓を期待**



【三陸の豊かな海産物】



《水産事業者コメント》(H27.2ヒアリング結果)

輸送時間が短縮されれば、より鮮度が高い状態で届けられるため、より高値で買ってもらえ、売上拡大につながるほか、販路の拡大が期待できる。

(H28.2.8岩手河川国道事務所公表資料より抜粋)

- 三陸復興国立公園や三陸ジオパークなど様々な観光資源が存在
- 内陸部からのアクセス、観光地間周遊の円滑化が必要
- 宮古港と室蘭港を結ぶフェリー定期航路と連携した広域的な交流連携・観光振興
- いわて花巻空港と連携した訪日観光客(インバウンド)の引き込み

復興道路等の
早期完成が必要



室蘭港～宮古港
H30.6月開設予定

○ 三陸復興国立公園

東日本大震災津波で大きな被害を受けた三陸海岸で新しい国立公園「三陸復興国立公園」が平成25年5月に環境省から指定

○ 三陸ジオパーク

平成25年9月に、岩手県を中心とする三陸海岸が、地球活動遺産を見どころとする自然公園「日本ジオパーク」に認定

○ 高田松原津波復興祈念公園

東日本大震災津波の犠牲者への追悼と鎮魂や復興への強い意志を国内外に向けて明確に示すこと等を目的に、復興の象徴となる復興祈念公園の整備に向けて、基本構想及び基本計画を策定

○ フェリー定期航路開設（室蘭港～宮古港）

復興道路等の整備による「宮古港から岩手県各地、仙台、首都圏等へのアクセス向上」等が決め手となり、岩手県初のフェリー定期航路が開設予定 <運航計画> 1日1往復（航海時間10時間）



浄土ヶ浜



碓石海岸

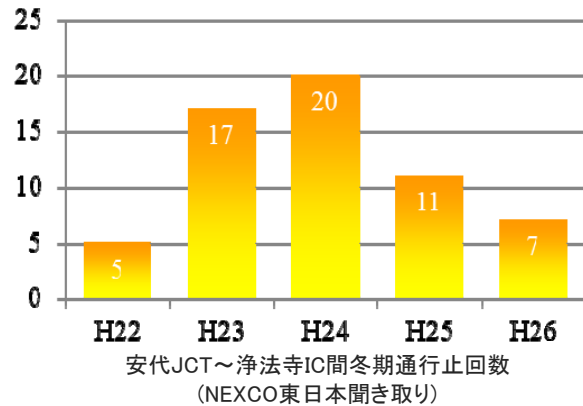


シルバークイーン試験入港

- 平成30年6月に、室蘭港～宮古港を結ぶフェリー定期航路が開設予定
- 三陸沿岸の主要港である八戸港への物流ルートである東北縦貫自動車道には、冬期間の定時性に弱み
- 三陸沿岸道路の整備後は、八戸港・宮古港・仙台港が、冬期も安定した物流が期待される高規格道路で連結

【東北縦貫自動車道】(所要時間 仙台市～八戸市 約3時間25分)

- ・有料
- ・冬期の定時性に弱み
(岩手県北部では冬期に通行止めが発生)

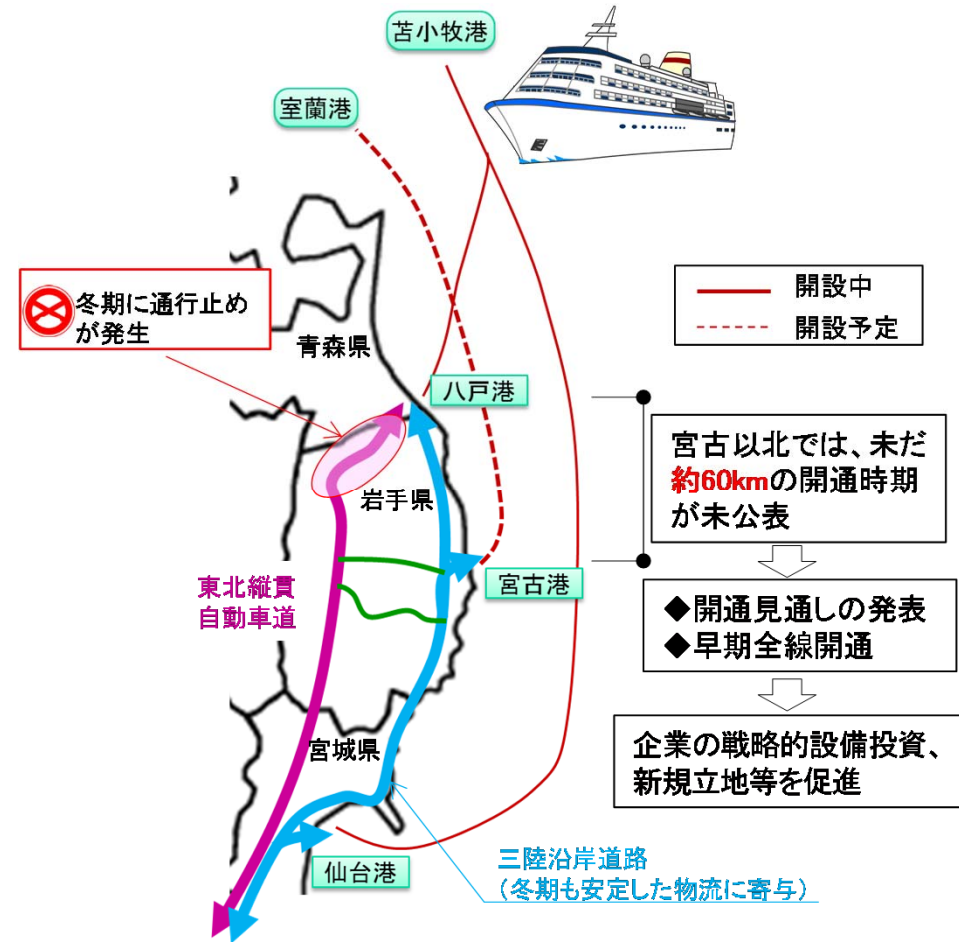


冬期通行止めイメージ

【三陸沿岸道路】(所要時間 仙台市～八戸市 約4時間25分)

- ・無料
- ・冬期間の定時性に強み (内陸に比べて安定した気候)

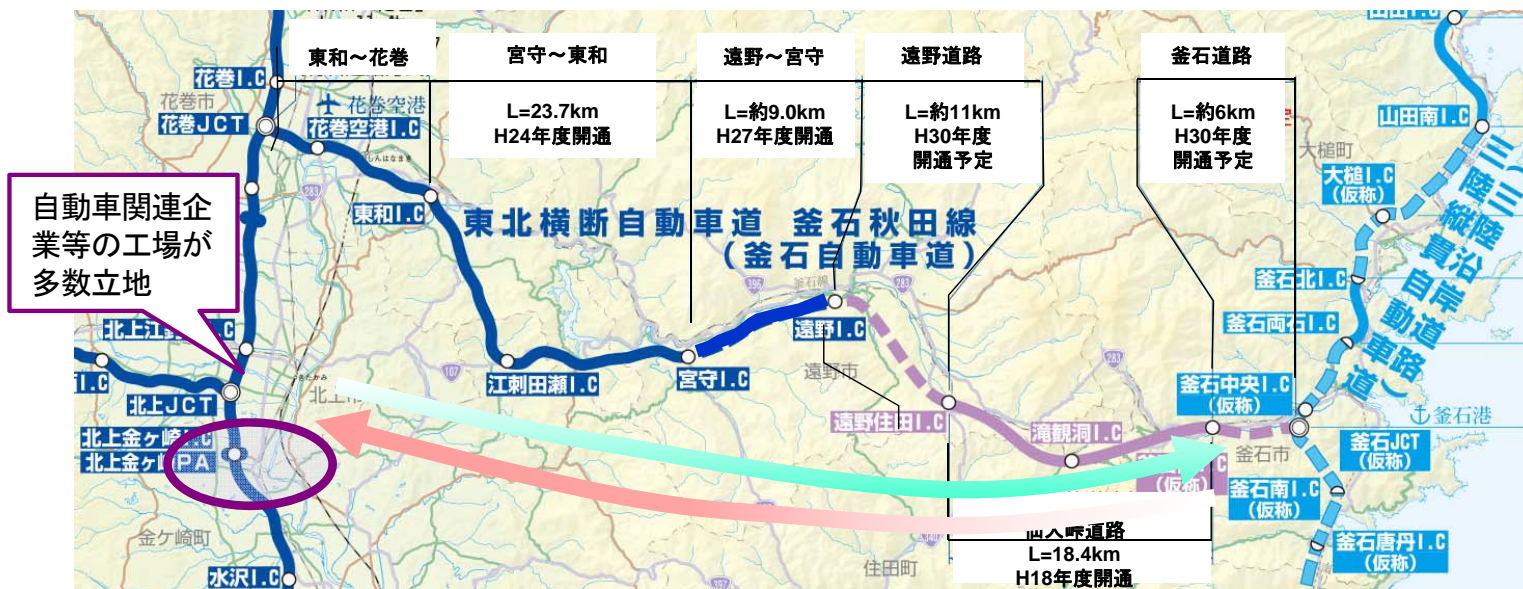
◆ 三陸沿岸地域におけるフェリー定期航路 <①苦小牧～八戸 ②苦小牧～仙台 ③(予定)室蘭～宮古>



フェリー定期航路や復興道路等が形成する物流網により、多様化する物流に対応するとともに、物流ルートのリダンダンシーを確保

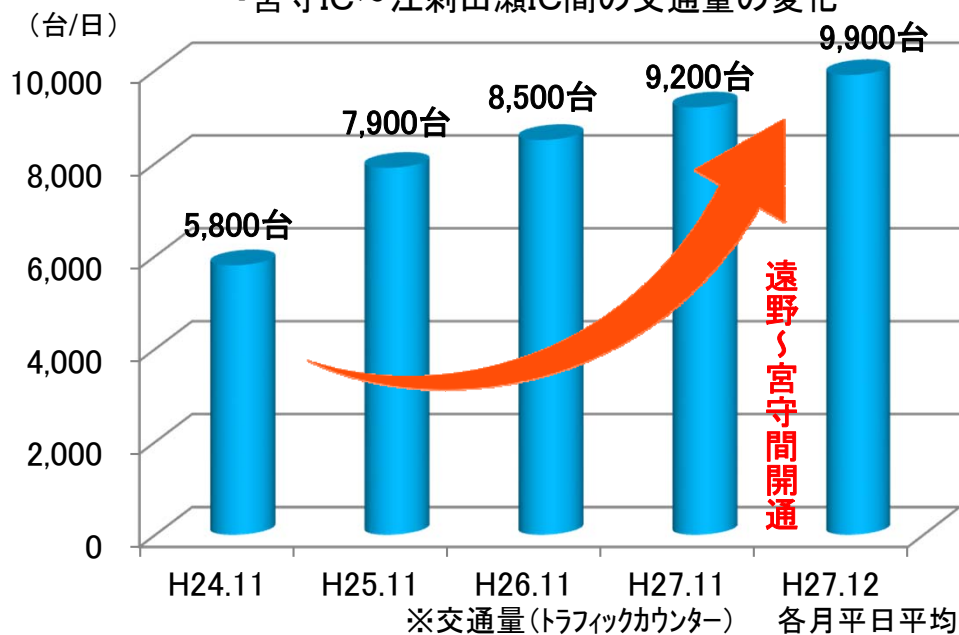
港湾との連携強化、物流需要の増大①

- 釜石港では、平成23年度に国際フィーダーコンテナ定期航路が開設
- 東北横断自動車道釜石秋田線と釜石港の連携により、利用企業数、コンテナ取扱量が大きく増加

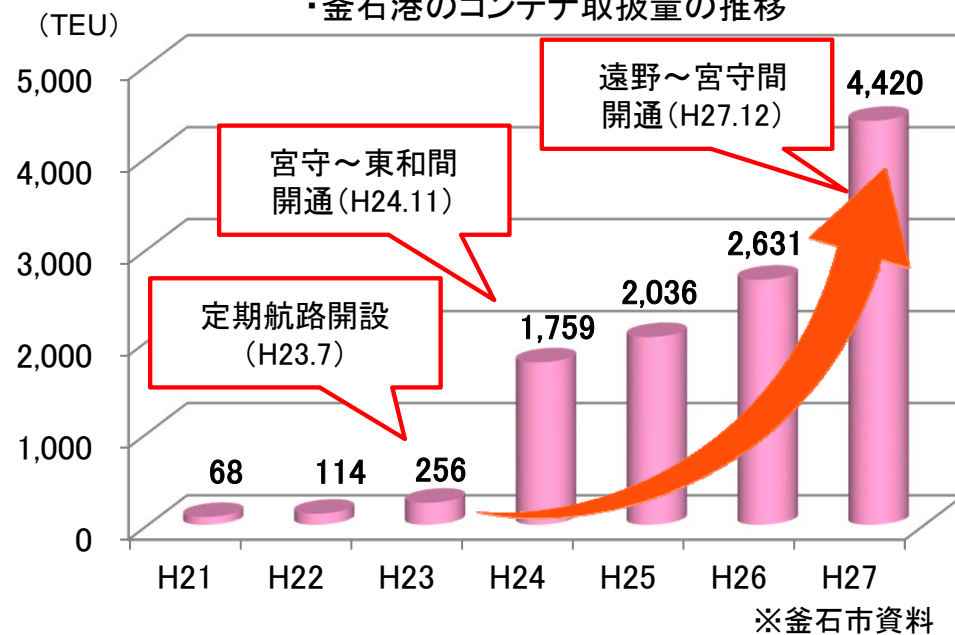


釜石港

・宮守IC～江刺田瀬IC間の交通量の変化



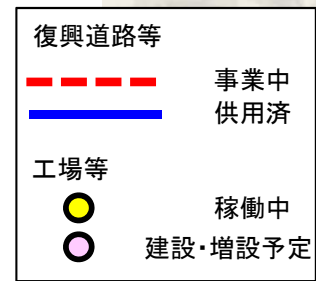
・釜石港のコンテナ取扱量の推移



- 釜石市は、重要港湾釜石港があり、三陸沿岸道路と東北横断自動車道釜石秋田線の結節点
- 復興道路等の完成による物流拠点の優位性を見込んだ企業立地、事業拡大の動き
 - エア・ウォーター物流(株)「釜石低温センター」H26.9月完成・稼働(大型低温倉庫)
 - トリナ・ソーラー社「釜石物流センター」建設予定(ソーラーパネル)
 - SMC(株)釜石、遠野工場増設予定(空気圧縮機)
 - 物流大手の福山通運が、釜石市に配送センターを整備し、H28.3月から稼働開始



エア・ウォーター物流(株)
釜石低温センター(H26.9月稼働)



平成27年3月13日 岩手日報

空気圧機器メーカー SMC

遠野、釜石で増設

きょう工場立地協定

【遠野市】空気圧機器メーカーのSMC(東京)は、遠野市と釜石市で工場立地協定を結んだ。遠野市では、遠野市工業団地(約10ヘクタール)に、遠野工場を増設する。釜石市では、釜石市工業団地(約10ヘクタール)に、釜石工場を増設する。SMCは、遠野市と釜石市で工場立地協定を結んだ。遠野市では、遠野市工業団地(約10ヘクタール)に、遠野工場を増設する。釜石市では、釜石市工業団地(約10ヘクタール)に、釜石工場を増設する。

平成27年7月22日 岩手日報

福山通運 釜石立地へ

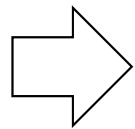
30人雇用、来年3月始動



【釜石市】福山通運(福山)は、釜石市に配送センターを整備する。約4000平方メートルの敷地に、約30人の従業員を雇用し、来年3月に始動する。協定を結ぶのは、遠野市長、小丸社長、佐々木市長、野田市長らだ。

1 岩手県港湾利用促進プラン（H28.4） 世界を結び 未来を拓く ～岩手のみなと～

- 復興道路、復興支援道路の整備がかつてないスピードで進められており、また、湾口防波堤等の港湾施設の復旧が急ピッチで進んでいることから、**岩手県沿岸部を中心とした社会資本は、5年間程度で飛躍的に充実することが期待できる状況**



これらの社会資本を**物流インフラとして大いに活用しストック効果を最大限に引き出すこと**により、企業の新規立地や定期航路の開設といった港湾を取り巻く新たな動きを地域経済の力強い発展に結び付けていく

2 いわてポートセミナー2016

- 平成28年2月2日（火）、**東京都内のホテルにおいて、知事及び重要港湾所在市長が、首都圏の荷主企業や船会社の89社・190名に対してトップセールス**
- 東北地方整備局川瀧局長からの講演により、復興道路等の道路ネットワークの整備状況についての情報を関係者が共有



達増知事



川瀧局長

3 ガントリークレーンの整備

- ・復興道路等の整備により、釜石港までの輸送の安全性、定時制を確保
- ・国際フィーダー船の大型化
- ・平成28年度中には、荷役施設（クレーン）の能力を超えるコンテナ取扱量となる見通し
- ・平成29年度から外貿ダイレクト航路が開設予定

荷役能力向上のため、**ガントリークレーン**を整備



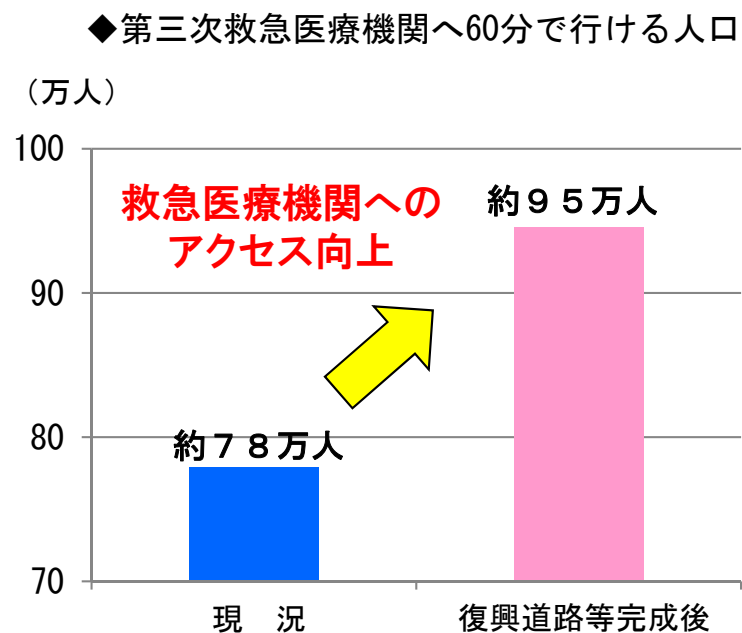
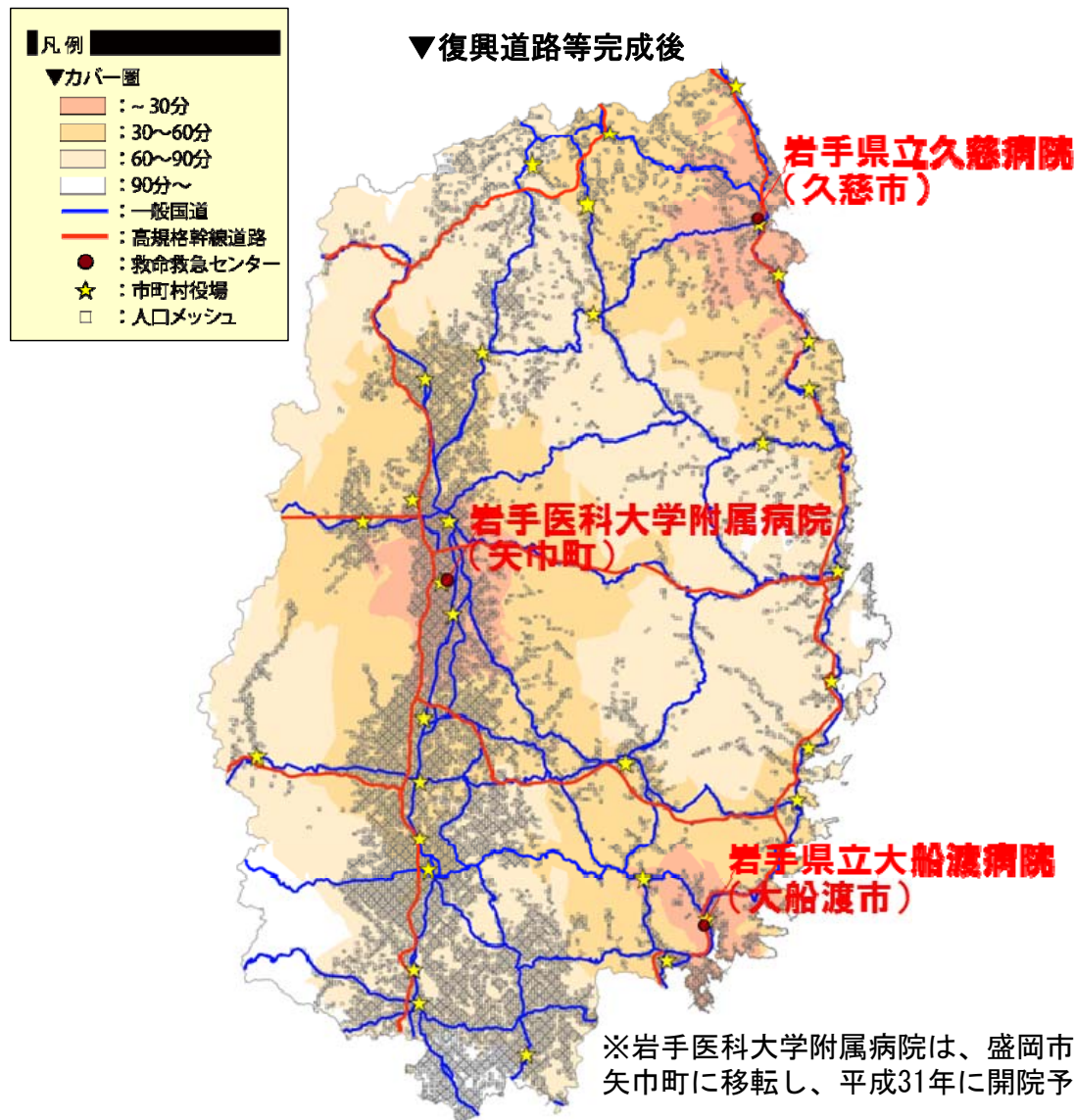
従来のジブクレーン

約3倍の
処理能力



ガントリークレーン

- 道路網が貧弱な三陸沿岸地域では、医療拠点までの隘路が存在
- 救急医療体制の整っている第三次救急医療機関は盛岡、大船渡、久慈の3箇所
- 復興道路等の整備により、**第三次救急医療機関へ60分以内に行ける人口は約17万人増加し、約95万人に達する見込み**



○人口は、H22国勢調査による
 ○道路ネットワーク条件は、次のとおり設定
 ・現況 (H26.4月時点)
 ・復興道路等完成時点

「岩手県沿岸市町村復興期成同盟会」

被災13市町村が連携して、国等へ働きかけを行うことを目的として、平成23年に組織

平成27年9月19日発表
共同声明書(抜粋)

◆当面の重点取組項目

次の項目について、県と連携を図りながら、重点的に取り組む。

- ・三陸ジオパークや、みちのく潮風トレイル等の広域的な観光資源の活用
- ・世界遺産、防災教育、豊かな食等の要素を組み合わせた広域観光の強化による交流人口の拡大
- ・三陸ブランドの推進に向けた取組
- ・三陸沿岸道路、鉄道、フェリー等の交通インフラの有機的な利活用
- ・ラグビーワールドカップ2019開催を見据えた取組

復興と地方創成を力強く進めるための新組織

「岩手三陸連携会議」

- ◆自治体連携を強め、自力で三陸の未来像を探る新たな段階へ
- ◆三陸沿岸地域全体を「広域圏域」と捉え、持続可能な三陸沿岸地域を創るための協働の取組を推進
- ◆次の課題に広域で取り組むための具体策を検討していく
 - ・復興道路など交通インフラの活用
 - ・観光振興
 - ・フェリーの新規航路など港湾の利活用
 - ・農水産物などの三陸ブランド化
 - ・震災追悼施設の整備や伝承の在り方
 - ・2019年ラグビーワールドカップ対応

三陸沿岸全体としての
広域的課題解決を支援

～復興道路のその先を考える～

復興道路等の
早期完成

そのストック効果を最大限に
活用し、復興につなげていく

三陸の未来を拓く提案 (三陸復興・振興方策調査報告書) 平成28年3月

【調査の趣旨】

- 中長期的な視点や広域的な観点に立ち、様々な分野の方からご意見を伺いながら、**新たな三陸地域を築いていくためのアイデアや事例をプロジェクトの形で整理したもの**
- 県としても**平成28年度に行う第3期復興実施計画の策定過程において検討し、実行に移していくもの**

【方策とりまとめの流れ】

【復興に関わる人たちの知見】

- ・行政関係
三陸地域の市町村長 等
- ・企業・団体
観光業、製造業、流通業、
水産加工業、漁業協同組合 等
- ・有識者
復興委員会委員、県外有識者

【他地域の事例調査】

- ・宮城県 女川町、石巻市
- ・新潟県 長岡市、十日町市

復興道路等の交通ネットワークの整備による
ストック効果に着目した3分野のプロジェクト

【地域の現状把握】

- ・**交通ネットワークの整備**
- ・復興まちづくりの進展
- ・産業の再生
- ・コミュニティの再生

【基本的な考え方】

- ・**交通ネットワークの活用**
- ・交流・連携の仕組みづくり
- ・多様な資源の発掘・活用

【三陸復興・振興方策】

三陸の未来を拓くプロジェクト

時間短縮効果を産業振興へ
A 産業

A-1 三陸まるごと直送プロジェクト

～新鮮な三陸の水産物等を復興道路で消費地に直送～
高い付加価値を持つ三陸の新鮮な水産物等を、**復興道路を活用して迅速に消費地に輸送**する仕組みを構築する

A-2 三陸物流強化プロジェクト

～港湾と復興道路の活用による県内企業の競争力向上～
港湾と復興道路を活用した効率的な物流ネットワークを生かし、県内企業の競争力の向上と三陸地域における物流拠点の形成を図る

A-3 三陸産ブランド構築プロジェクト

～生産者の意欲と所得向上に資する産地ブランドの形成～
生産者と消費者の関係の強化や総合的な商品力の向上を通して、水産物等を付加価値の高い商品として販売できる「三陸産ブランド」を確立する

A-4 三陸産業プラットフォーム形成プロジェクト

～企業における人材・資金・経営面の課題を組織的に支援～
人材確保・育成、資金調達、経営面の課題解決のため、地域横断的な組織が、企業や地域のニーズとのコーディネート等の支援を行い、地域産業の振興を図る

イメージ(A-1 三陸まるごと直送プロジェクト)



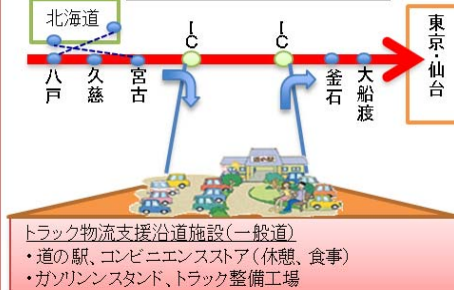
イメージ(A-2 三陸物流強化プロジェクト)

【重要港湾4港(久慈港・宮古港・釜石港・大船渡港) 港湾の役割分担による港湾利用率向上

- 各港の特性を生かして、港湾の利用を促進
- 内陸の産業エリアと連携した物流網の構築と必要な機能整備



復興道路(県内全区間無料)



B 観光

アクセシビリティ向上を交流拡大へ

B-1 食の観光コンテンツ充実プロジェクト

～三陸の豊かな水産物を生かして食の観光コンテンツを充実～
世界でも屈指の漁場である三陸沖の海の幸、雄大な大地からもたらされる山の幸を生かし、「三陸に行きたい！」と思わせる、三陸の食の魅力を創出し、交流人口を拡大する

B-2 三陸まるごと博覧会プロジェクト

～イベント開催を契機とした観光地としての魅力の向上～
イベント開催をきっかけとして、**観光地としての交通利便性**や宿泊のポテンシャルを向上し、季節毎の魅力を地域間で連携させたフィールドミュージアム型の観光地づくりを行う

B-3 三陸観光マネジメントプロジェクト

～人材育成・商品開発・情報発信の戦略的な実施～
国内外から訪れる観光客が、三陸の魅力を存分に感じ楽しんでもらえるよう、地域が連携して個性的な観光メニューの充実や**道の駅等の整備による周遊観光の充実**を図る

C コミュニティ

生活圏拡大を地域活性化へ

C-1 地域間交流のまちづくりプロジェクト

～地域の人々が交流しながら快適に生活できる環境の形成～
復興道路の整備や鉄道の復旧等による生活圏域の変化に対応し、生活サービス機能の利便性の向上を図り、地域の人々が快適に生活できる環境を形成する

C-2 開かれたまちづくりプロジェクト

～地域人材と外部人材による地域づくりの実働部隊を編成～
人材が広域で活躍できる仕組みや移住者の受入れ態勢づくり等を通して、地域内外の多様な人材の力を三陸地域全体の地域づくりに生かしていく

三陸の未来を拓く提案（三陸復興・振興方策調査報告書）

三陸の復興・振興

地域文化・自然環境の豊かさとゆったりした時間を
享受できる新たなライフスタイルを実現



地域内外の人々の交流と連携によって
地域づくりを促進



三陸における豊かな自然環境
・農林水産資源
震災復興の多様な取組

交流・連携の仕組みづくり

三陸地域で活躍する若者、女性など個人、企業や団体の多様な主体による相互連携や支援の仕組みを整え、創造的な地域づくりを促進する

交通ネットワークの活用

交通ネットワークの変化を三陸地域のヒトとモノの交流につなげる

多様な資源の発掘・活用

三陸ならではの地域文化や自然環境、農林水産部などの多様な資源の発掘・活用による持続可能な地域社会を実現する

復興道路の完成が、三陸の未来を拓く

- 国の「復興・創生期間における東日本大震災からの復興の基本方針」に沿って着実に復興道路等の整備が進み、早期に全線完成することが被災地の復興と未来に必要不可欠
- そのためには、復興道路等の整備に決して遅れが生じないように、また資材価格や人件費の上昇による事業費の増額にも十分対応できるように予算を確実に確保することが重要な課題

港、横断・縦貫道の結節点、産業・経済活性化へ早期全線整備を！

- ☆ 平成23年7月、国際戦略コンテナ港湾『京浜港』と『釜石港』を結ぶ国際フィーダーコンテナ定期航路が開設
- ☆ 釜石港と横断道・縦貫道の結節点として好条件 → 企業立地が進み、コンテナ取扱量もH27年度大幅に増加！
- ☆ 横断道・縦貫道の全線開通により、釜石港と内陸部・沿岸部との連携強化を図り、産業・経済を活性化

▼釜石港利用物流ルート

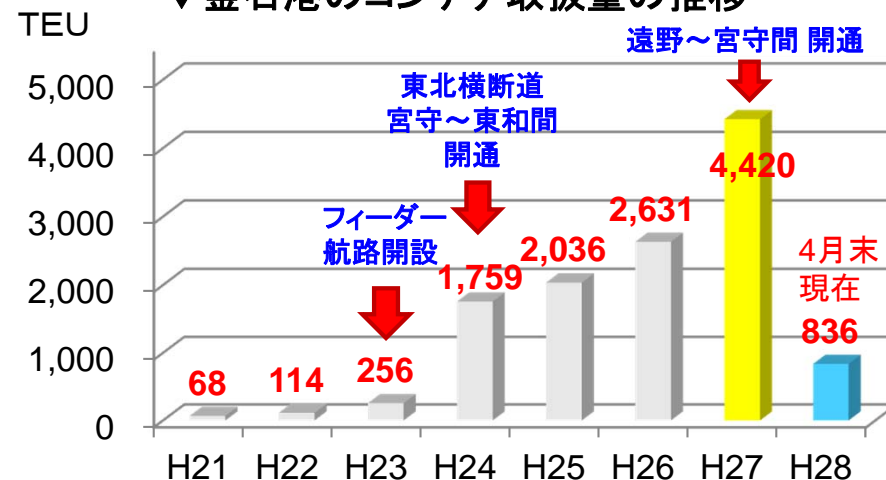


- ☆ 沿岸と内陸のを結ぶ物流アクセスの拠点
- ☆ 無料区間を利用した新たな物流ルート
- ☆ 企業進出による物流量増加、生産性の向上
- ストック効果が期待される！

▼釜石市における近年の企業立地の状況

区分	企業名	立地協定
新規	(株)バイオ・パワー・ジャパン	H23年10月
増設	SMC(株)工場	H23年11月
新規	双日食料水産(株)	H24年2月
新規	釜石ヒカリフーズ(株)	H24年3月
新規	エア・ウォーター物流(株)	H24年12月
新規	トリナ・ソーラー社	H26年9月
増設	SMC(株)工場	H27年3月
新規	福山通運(株)	H27年7月

▼釜石港のコンテナ取扱量の推移



ラグビーワールドカップ2019成功のため復興道路の早期整備を！

☆東北を代表して釜石市が開催地に決定！

☆被災3県が、国内外から頂いた御支援への感謝を伝え、復興の姿を発信する絶好の機会！

☆ラグビーワールドカップ開催により、地域の子どもたちに夢と希望を与え、復興を強力に後押し！



●課題

- 期間中、県内に延べ30万人が来訪予定
- 釜石市のみでは、来訪者の宿泊に対応困難
- 広域での宿泊確保及び輸送体制の確立

※ 釜石・大槌地区の宿泊施設の定員は 約1,500人

◎ラグビーワールドカップ2019を成功に導くためには、復興道路・復興支援道路の早期完成が必要不可欠！

◎県内各市町村との連携と、輸送体制の確率が必要！

復興道路・復興支援道路の整備を見越し 岩手県初となるフェリー定期航路が開設！

資料6-2

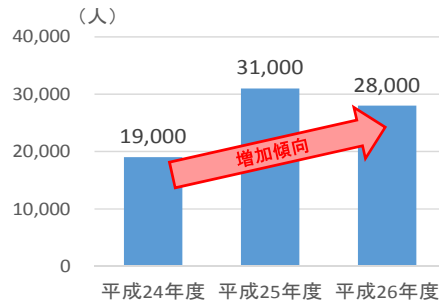
宮古市

平成30年6月(予定)に宮古～室蘭を結ぶ岩手県初となるフェリー定期航路が開設

- 岩手県内陸部、三陸沿岸地域を有機的に結びつけることで、物流の効率化はもとより、観光による交流人口の拡大などによって三陸沿岸地域全体の地域活性化が図られる。
- 三陸沿岸全体として地域創生を目指すため「三陸連携会議」を立ち上げ。



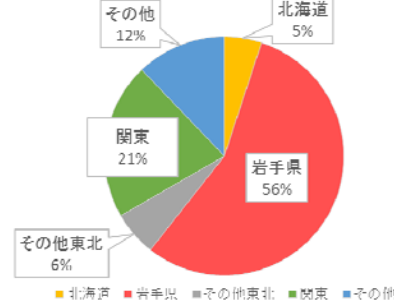
▲学ぶ防災ガイド(宮古市)



▲震災学習「学ぶ防災」ガイド 参加人数(宮古市)



▲語り部ガイド(陸前高田市)



▲「学ぶ防災ガイド」参加校内訳(H26,全99校)

<岩手県沿岸のジオサイトと主な観光ルート>



フェリー航路開設による物流・観光の活性化のためには、復興道路・復興支援道路の早期完成が大前提であり、地方創生の実現に不可欠！

「広域道の駅」による復興道路の活用と地方創生①

資料6-3

久慈市

地域課題

震災復興
人口減少
雇用創出

整備効果

- ①無料の高速道路
- ②移動時間の大幅な短縮
- ③冬場の雪が少なく路面の状況が良好
- ④仙台八戸間359キロを結ぶ高速道路が久慈広域を縦断

復興の加速
交通量が増加
交流人口が拡大



人口減少対策

久慈広域	2010年 総人口(人)	2040年総人口(人)	
		社人研推計	創生会議
久慈広域	62,505	39,079	34,772

久慈広域市町村が連携を図り人口減少に歯止めを掛ける必要がある

三陸復興国立公園の創設、みちのく潮風トレイル、三陸ジオパーク認定、NHK連続テレビ小説「あまちゃん」、外国人観光客の増加

多様な観光資源を結びつける

「もぐらんぴあ」
年間平均観光客数65,000人(H12~H22)



H23.3
全壊
0人



H28.4.23
オープン

復興のシンボル・交流拠点として震災前以上の観光客を確保

「教育旅行」

教育旅行の受け入れによる交流人口の拡大

H23
4,400人

H24
7,100人

H25
7,300人

H26
8,800人

H27
7,900人

更なる誘客
(6割が仙台からバスを利用)

「企業進出」

- ・県北地域の配送拠点として「福山通運(株)久慈営業所」が操業開始
- ・(株)十文字チキンカンパニー久慈工場の大規模増設

ストック効果の発揮
(物流の効率化、雇用拡大、経済成長)

震災復興・産業振興・観光・交流と復興道路の整備・道の駅をセットで地方創生

賑わいの創出

復興道路の全線開通により多様な
ビジネスチャンスが生まれる

三陸復興国立公園、三陸ジオパーク
みちのく潮風トレイル、あまちゃん



休憩施設、食事提供施設、産直・
特産品販売施設、大型駐車場など

復興道路の活用策
⇒ 全国から訪れる集客施設を整備

復興道路の完成による
交通量の増大を見据えた
地方創生の核となる
「広域道の駅」の整備
整備が遅れると

岩手日報 平成28年3月26日

広域道の駅整備合意 4カ所を候補地に

久慈地域の4市町村長が、した持続可能な道の駅を整備し、被災地を活性化させることを目指す基本方針が示された。久慈広域行政協議会（会長、津藤謙一）は25日、久慈市役所で会合を開き、「広域道の駅」の整備実現に向けて検討を進めることと合意した。4市町村から1カ所ずつ整備候補地が挙げられ、比較検討した上で1カ所に絞る。

三陸沿岸道路（仙台市～八戸市）3.0kmの完成を期す久慈の道の駅が整備される場や新たな魅力の創出▽地方創生の拠点▽を柱とされた。

久慈地域の4市町村長が、した持続可能な道の駅を整備し、被災地を活性化させることを目指す基本方針が示された。久慈広域行政協議会（会長、津藤謙一）は25日、久慈市役所で会合を開き、「広域道の駅」の整備実現に向けて検討を進めることと合意した。4市町村から1カ所ずつ整備候補地が挙げられ、比較検討した上で1カ所に絞る。

三陸沿岸道路（仙台市～八戸市）3.0kmの完成を期す久慈の道の駅が整備される場や新たな魅力の創出▽地方創生の拠点▽を柱とされた。



被災地の復興はもとより、復興道路の完成や交通量の増大を見据えた、企業の進出や地元企業ビジネスチャンスを逃し、地域課題の解決が遅れることから、復興道路整備が不可欠



復興道路を前提とした新たなまちづくり

復興道路の
整備効果

- ◆ 救急搬送時間・経路の短縮による安心・安全の確保
- ◆ 都市間交通の所要時間の短縮による交流人口の拡大
- ◆ 物流の円滑化による産業基盤の向上

「新たなまちづくり」

高台団地、災害公営住宅、消防署分署、etc.

◆ 救急搬送時間・経路の短縮

- ・ 久慈病院等への搬送時間の短縮
 - ・ 津波浸水エリアを回避し、緊急車両を運行
- ⇒ (仮)野田IC付近に久慈消防署野田分署を移転[H28]

“安心・安全の確保”

◆ 都市間交通の所要時間の短縮

- ・ 仙台圏域、八戸圏域など都市部との所要時間短縮による利便性の向上
- ⇒ 新たな玄関口として交流物産等複合施設を(仮)野田IC付近に整備予定

“交流人口の拡大”

◆ 物流の円滑化

- ・ 都市部への輸送の円滑化による輸送時間の短縮と物流コストの低減(荒海ホタテ等の輸送時鮮度向上)

⇒ 木質バイオマス発電所の燃料を久慈港から大型車で輸送

“産業基盤の向上”



復興道路の早期完成によって、「安心・安全なむら」「地域経済の好循環」を実現!!

復興道路が村の産業・村民の生活を支える！！

資料6-5

普代村

○産業の振興としての活用

☆普代の水産物は、毎年十数億円程度の出荷額となっており、仙台や首都圏方面にも出荷されている。

☆災害時の八戸方面への水産物運搬面での速達性向上を含め、三陸沿岸道路は、村の産業、村民の生活を支える重要な路線として機能する。

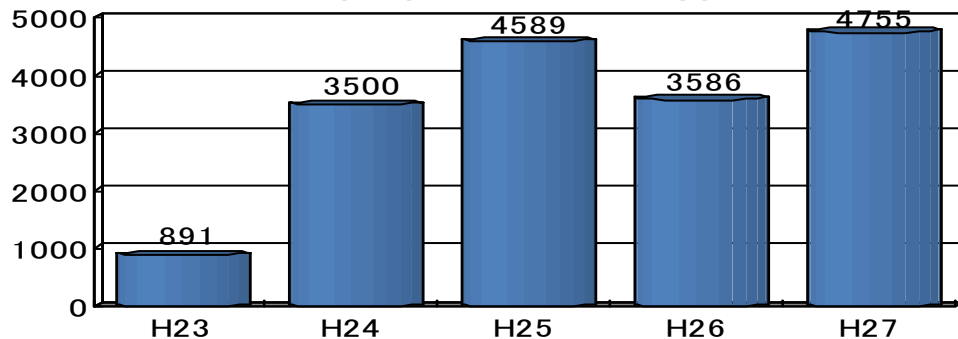
○いのちの道としての活用

☆小・中学校から三陸沿岸道路への津波避難階段を設置して頂いたことによる児童・生徒の迅速な避難が可能となった。

◆ 普代村の水産物の出荷状況

普代村の水産物の出荷額約14億円(H27)のうちわかめとこんぶが4億2千万円(出荷量:4.755トン)と、村の主力水産物であり、仙台や首都圏方面へも出荷している。

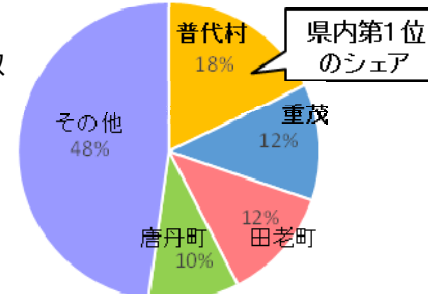
普代村のわかめ・こんぶの出荷量



◆ 組合別のわかめ・こんぶの取扱量

普代村漁協のわかめ・こんぶの取扱量は、
県内シェア第1位 (約18%)

ワカメ・コンブ取扱量(岩手県)

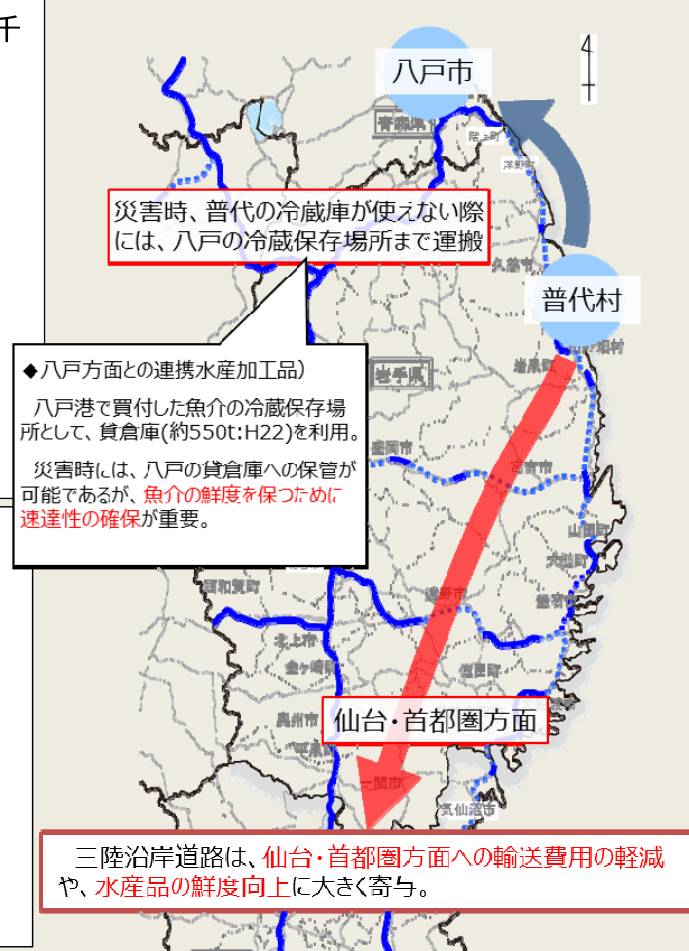


資料: H26年度 組合別・品目別共取扱実態調査 (岩手県漁連)



すき昆布加工作業の様子

▼ 普代村からの水産物の出荷と八戸との連携



「いのちの道」としての活用

津波避難階段が児童・生徒の迅速な避難を支援



平成27年2月17日
津波注意報発令時避難の様子

大槌町復興まちづくりには復興道路の早期整備が必要！！

資料6-6

大槌町

復興道路の活用

- 救急搬送時間・経路の短縮、安全性確保
- IC周辺の交流拠点(産直)から復興拠点(町中心地)への誘客
- 産業集積地からの物流の円滑化、物流販路の拡大

○救急・災害時の搬送経路確保

大槌町民にとって安心できる生活の実現に寄与する

経路の現状

県立釜石病院への経路・隣接市町との接続道路

- ・多くの浸水箇所を通る。
- ・市街地を通行することによる時間的損失が大きい。

整備効果

- 災害時や救急時に安全かつ迅速な移送・通行が可能。
- 救急救命の向上や孤立解消。

ICへ接続する
県道・町道の
環状化により
沿岸道路への
連結性の向上

復興事業による整備

- 源水大橋の開通(H28.3)
- 大槌、小槌川沿い地域の連絡強化を目的にトンネル建設。
- 町方大ケ口線の整備。

○産直施設を起点とした誘客

IC付近に産直施設オープン(H28.1)



大槌町への新たな
玄関口の活性化

- ・地域活性化、来町者、住民、生産者との交流の場。

玄関
から
奥座敷へ

中心地への導線

復興拠点(市街中心地)へ

- 大槌IC・産直
- 源水大橋
町方大ケ口線
- 市街中心地

源水大橋の開通(H28.3)、町方大ケ口線の整備により、商店街、公共施設等が整備される中心地へ繋がることを生かし、来町者を呼び込む。
町への集客施策展開へ寄与。

○誘致企業向け産業集積地を整備

水産加工企業の立地が進んでいる

- ・小野食品株式会社
- ・株式会社 壮関
- ・石山水産株式会社

平成28年度
稼働

外数社立地予定



○復興道路の開通による消費地への輸送の円滑化を見込む

輸送時間短縮により販路拡大に寄与する。

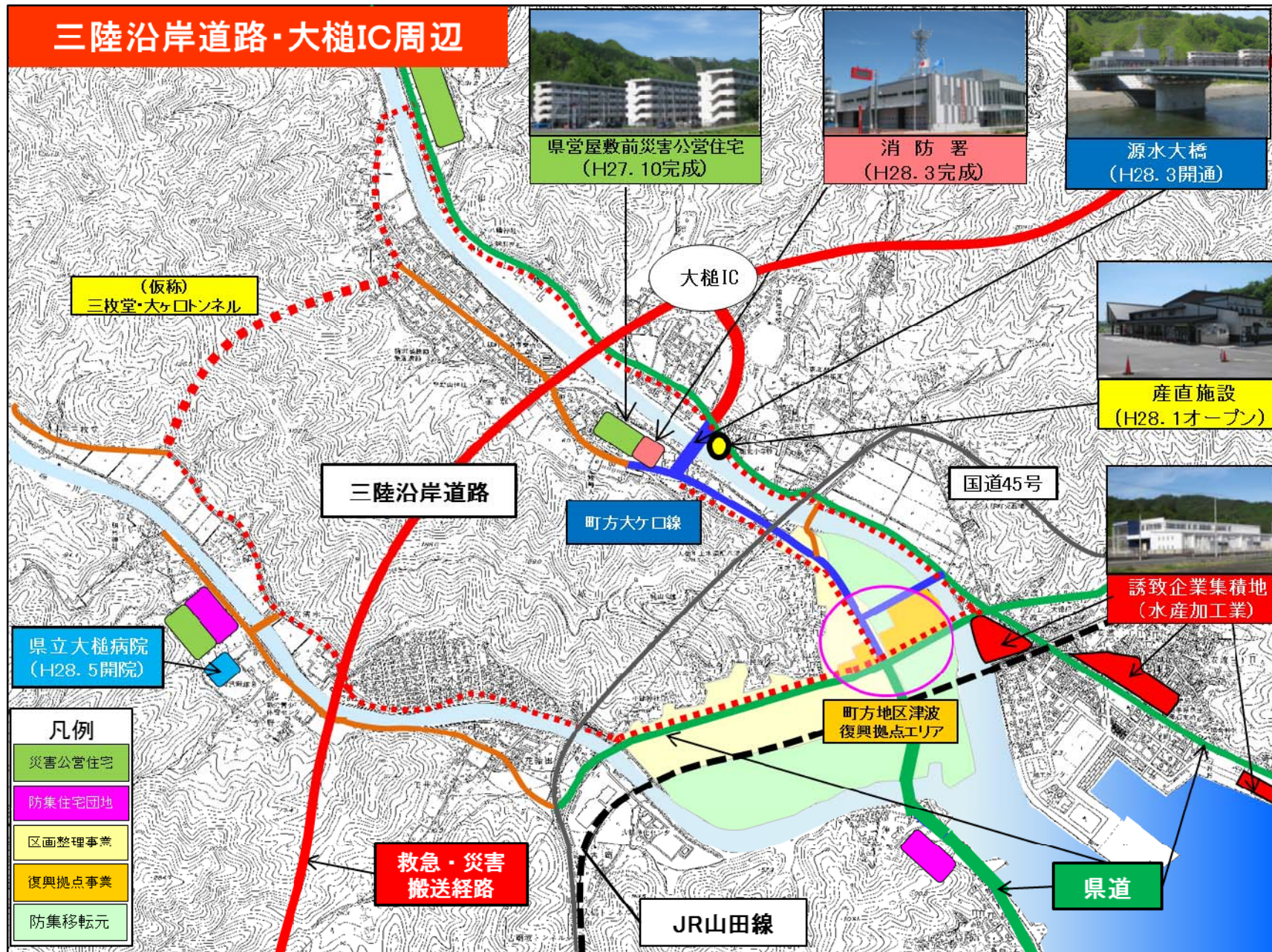
三陸の中央に位置する当町においては復興道路の縦軸により八戸、仙台等の沿岸部、横軸において県内外の内陸の大規模消費地へ。

平成30年度までを復興期間としており、今後、新しい町が形成されていくなかで災害、救急時の安全な移送搬送路の確立、産直施設や産業集積地を起点とした町の活性化のためにも復興道路の早期完成が必要不可欠！！

大槌町復興まちづくりには復興道路の早期整備が必要！！

資料6-6

大槌町



復興道路等を活用した救急・救助・救援活動を支援する「命の道」

◆内陸部等への線形不良が解消され、走行性・安全性が向上したことにより重大事故が減少し、救急搬送時間の短縮効果があります。

- 医療の面では、沿岸部から専門的な医療体制が整っている県立中央病院や岩手医科大学病院など内陸部の病院に救急搬送をしなければならない場合があり、この三陸沿岸道路や東北横断自動車道釜石秋田線の整備により搬送時間が短縮され救急医療の向上につながります。
- 安全の面では、線形不良が改善されることにより走行性、安定性が向上し、重大事故の減少が期待されるとともに、津波浸水区域を回避し、災害に強い道路ネットワークが構築されます。三陸沿岸道路の緊急退出路の整備により、県立大船渡病院までの搬送時間が大船渡ICから4分、大船渡基石ICから7分短縮されたことにより救命率が向上しております。

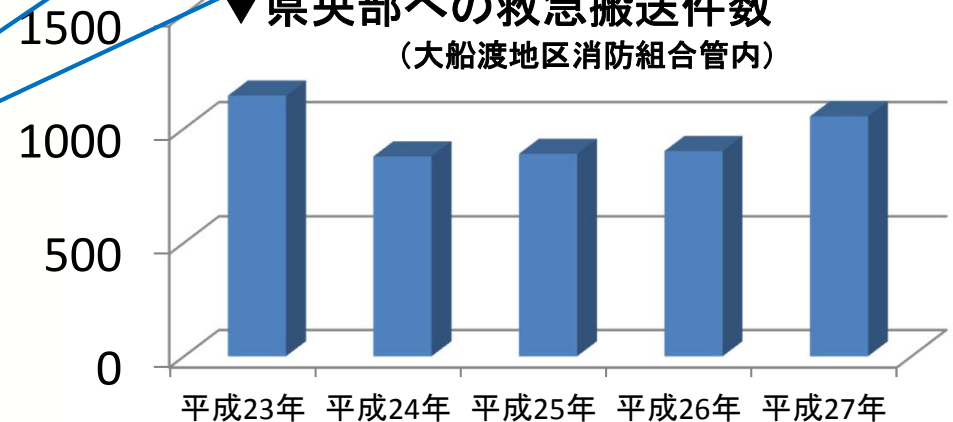


疾患		脳内出血	くも膜下出血	急性心筋梗塞
救命率 (%)	通常	48.80	17.03	10.80
	退出路	55.35	24.50	17.13
救命率の向上差 (%)		6.56	7.47	6.33

(大船渡基石海岸ICから県立大船渡病院緊急退出路を利用した場合)

※出典(土木学会論文集D3 Vol.67、No.5)

▼県央部への救急搬送件数
(大船渡地区消防組合管内)



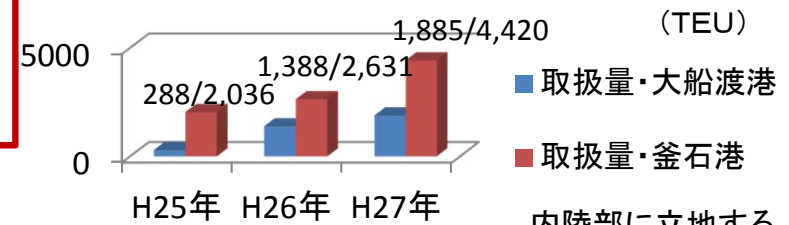
復興道路等を活用した、内陸部と港湾の連携強化で産業経済を活性化

資料6-7

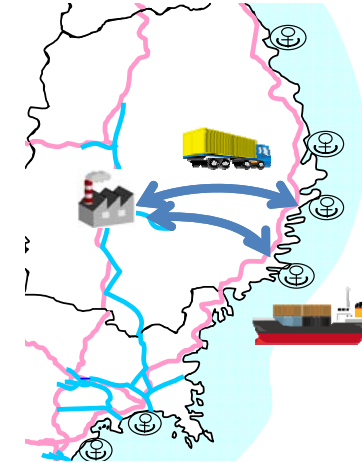
大船渡市

- ◆平成25年に国際フィーダーコンテナ定期航路を開設
- ◆県内港湾のコンテナ貨物取扱量のうち、43%が大船渡港（H27年実入り）
- ◆コンテナ貨物取扱の約7割は北上市、矢巾町へ輸送

コンテナ貨物年別取扱実績(空コンテナ込)



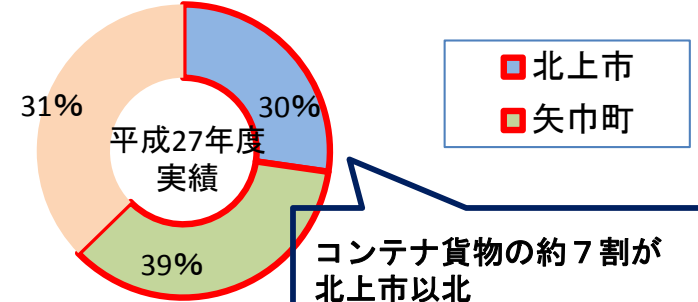
内陸部に立地する北上ハイテクペーパー(株)は、輸出先により複数の港湾を使い分けている。



【釜石港/大船渡港利用の理由】

- ・交通アクセスが改善されたため
- ・複数の輸送手段を確保する、等

▼コンテナ貨物取扱先



コンテナ貨物の約7割が北上市以北

《港湾関係者の声》

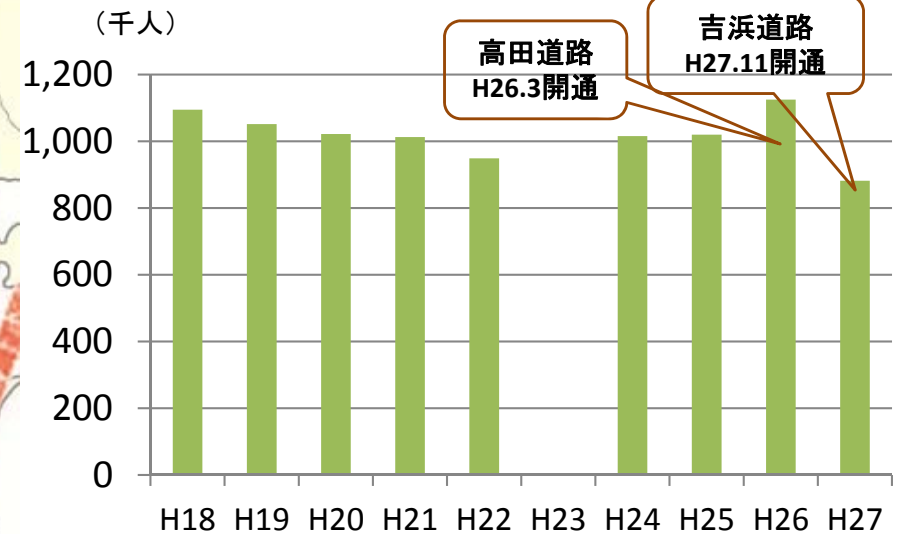
- 内陸部へのポートセールスでは、道路整備の重要性を話されます。揺れをきらう製品の運送には、高規格の道路の整備が必要です。



復興道路等を活用した、地域間交流の拡大による地域経済の好循環

- ◆震災後、三陸沿岸道路による交通アクセス改善やボランティア等の訪問により観光入込客数は回復傾向であったが、ボランティア等の来訪が減少しつつあることから、相対的に減少傾向
- ◆内陸とのアクセス向上により、さらなる観光入込客数の増加が期待

▼大船渡市の観光入込客数の推移



※H23は未集計

資料:大船渡市観光推進室

